台湾新聞

TAIWAN NEWS ◆ 2016年10月3日号 東京発行 NO.234

発行元：有限会社 台湾新聞社 〒171-0021 東京都豊島区西池袋 4-19-4 TEL：03-5917-0045 FAX：03-5917-0686 http://www.taiwannews.jp E-mail:info@taiwannews.jp
■定期購読をご希望の方は台湾新聞社までお問い合わせ下さい。 定価 350 円（税込） 定期購読 12 回：3,500 円（税込）/ 24 回：7,000 円（税込） ◎郵便振替：00140-4-594168

台湾観光局、地方観光促進に積極的な姿勢

台湾観光局訪日団の観光業界関係者ら（一部）

毎年９月のツーリズム EXPO ジャパン開催に合わせて観光業界の関係者らを引き連れて訪日し、何日間に渡り観光 PR を行っている台湾観光局の訪日団。今年は１２２団体、２４１人の関係者らが参加。この人数は過去最大級で、日本市場を重視している事が見て取れた。また、９地区の地方政府観光局も参加し、それぞれの地域の特色を紹介するなど、台北に留まらない“地方”への観光を押し進める姿勢が印象的だった。

日本の観光・旅行業界の関係者らを対象に９月２１日、品川プリンスホテル新高輪の飛天の間を貸し切り大々的に行われた商談会・セミナー及び懇親会。同会で訪日団の団長でもある台湾観光局の劉喜臨副局長は、「今回伝えたいのは、地方自治体それぞれの特色と魅力だ。今、地方観光地に遊びに行く事に不安を感じる必要はない」と述べた上で、各自治体で『台湾好玩卡（台湾おもしろカード）』というクーポン付きの個人旅行に便利なカードを発行している事を紹介した。

台湾好玩卡は約３年前にサービスが開始され、現在は、台中、台東、高雄、宜蘭の４種類のカードがあり、それぞれのカードで近隣地域と協力し、お得な旅行を提案している。劉副局長によると、今年の末にはさらに２種類のカードが発行される予定だという。劉副局長は、「このカードの効果はとてもいい。これを使えば各地域の最も良いところやグルメを堪能する事ができる。また、地域同士の協力を深めていくため、カードとカードの間でも連携出来るようにしていきたい」と今後の展望も語った。

台湾好玩卡の高雄バージョン
高雄，屏東，澎湖で優待

ツーリズム EXPO ジャパン、台湾ブースは今年も海外部門で最大級の大きさ

台湾好玩卡は、台湾の各県・市政府が地方資源を統合し、現地の特色ある観光スポットを推薦し、「時間・エリア限定」で交通手段と観光スポットの特別優待を提供する電子マネーチケット式カードを指す。同カードはインターネット販売がメーンで、サポートとして実体チャネルがあり、観光客は、同カードにより、現地でさまざまな特別優待やサービスを受けることができるというもの。

一方で残念な事として、同カードについて日本人観光客の認知度が低いという現実がある。これについて台湾観光協会東京事務所の鄭憶萍所長は、「マスコミの方々の力を借りたいと思う。記者の方々に台湾に行ってもらい、体験してもらった上で報道して頂く。このような策をとっていきたい」と話した。

“地方へは行きたくても行けない” ● 路線便不足が原因か ●

台湾の地方自治体から見た日本人観光客数について、日本から台湾の地方部への路線便の少なさが原因と指摘する声もあった。

台湾観光局が９月21日に行った懇親会に訪れた JTB の団体旅行を企画する担当者は、「我々も台湾の地方へのツアーを作りたいのはやまやまだが、高雄行きの飛行機は機体が小さく、大人数を一度に運べない事が理由で、現在あるツアーは台北に到着するものが８割９割になっている。いつも台湾の航空会社さんに話しをしているが、お客さんがいれば大きくするし、本数も増やすと言われてしまう。だが、我々は飛行機の座席がなければお客さんに提案が出来ない。この問題を解決する必要があるだろう」と現実的な問題点を話していた。

これについて、トランスアジア航空北東アジア地区総支配人・日本支社長の江許賢氏は、「同社には国内線があり、とても便利なので、是非そちらを利用して台湾の地方に行って欲しい。日本から地方への路線就航は企画はあるが、今のところ就航の予定はない」と話した。

また、鄭所長は、「多くの路線を就航して欲しいが、もしまだ難しいとの事なら、台湾には国内線や高速鉄道があり、とても便利だ。是非こちらも組み合わせて欲しい」とした。

一方、ツーリズム EXPO ジャパンの一般開放日である同２４日、台湾ブースを夫婦で訪れていた日本人来場者は、「国内線など、台湾現地の交通の便が良くても、やはり休みが少ない私としては、１泊２日では行ける場所に限りが出てくる。もし日本の空港から台湾の地方への飛行機が出ていれば、もっと気軽に短い日程でも台湾の様々な場所を楽しめると思う」とコメントした。

来年のランタンフェスティバル開催地 雲林県長自らトップセールス

台湾西部の雲林県の李進勇県長は９月２１日に行われた商談会・セミナー及び懇親会に自ら訪れ、来年２月に雲林県で行われるランタンフェスティバルのトップセールスを行った。李県長は、ランタンフェスティバルの詳細を説明したほか、「旧正月にランタンを持って練り歩くという風習は

雲林県のゆるキャラ「キモンチャン」も登場

雲林県の李進勇県長も自らトップセールス

もともと、雲林県の北港から発祥した。よって、ランタンフェスティバルの故郷は雲林だ。２０１７年２月雲林県で会いましょう」と述べ、日本の業界関係者らの雲林県訪問に期待の意を表示した。

さらに同２２日から２５日まで東京ビッグサイトで行われたツーリズム EXPO ジャパンの台湾ブースに出展した雲林県政府ブースでは、一般の日本人来場者らにランタンフェスティバルの資料配布や説明、さらに同県の特産品や観光名所を合わせて紹介した。これに加え、雲林県のゆるキャラ「キモンチャン」の着ぐるみも登場させるなど、去年の雲林県ブースと比べ、今年は格別に力を入れていた。

同ブースで雲林県政府文化処観光行銷科の王宣蘋科長は、「雲林県には台北や他の地域に負けない観光地やグルメがある。美しい民宿も充実している。そして、日本統治時代から残る建築物なども多く残っているので、世代が上の方には懐かしさを感じてもらえる場所が沢山ある」としたほか、「来年のランタンフェスティバルは、日本の方のみならず、世界に雲林県を知って頂く上で絶好のチャンスだと考えている。今後も、ネットや展示会などを用いて、さらに日本の方々にアピールしていきたい」と意気込んだ。

新宿の NEW スポット「Suica のペンギン広場」で台湾観光 PR イベント

台湾観光局は９月２２日、JR 新宿駅 Suica のペンギン広場（新南改札前広場）にて台湾観光 PR イベントを行った。同局と企画・運営を行ったジェイアール東日本企画広報部によると、今年７月にオープンした同所でのイベントは、同所発足時のオープニングイベントを除けば初めて。会場には「ツーリズム EXPO ジャパン」への参加に合わせ、台湾より訪日中の台湾観光局の劉喜臨副局長率いる観光代表団による各地方自治体・団体・ホテル・観光施設などがそれぞれブースを設けて異なる台湾観光の魅力を PR したほか、台湾先住民族舞踊の披露、台湾観光局スーパーミッションチームリーダー「喔熊（オーベア）」によるダンスショー、台湾手工芸の実演のほか、プレゼントが当たるゲームなども行われ、積極的に台湾観光の特色を伝えた。また、メーンイベントとして台湾のガイドブックも出している人気モデル・田中里奈さんによるトークショーも行われ、田中さんは台湾での遊び方やお気に入りのグルメ、台湾のファッションなどについて紹介した。

JR 新宿駅 Suica のペンギン広場で台湾観光 PR

TOPIC

日本語版

●優れた台湾製品の MOOK 本「すごいぞ台湾」が発売 ２面
●驚き！台湾人コレクターが所蔵の明治工藝が“里帰り”展示 ３面

中国語版

●京濱僑務座談會聚焦台灣正名問題 １面
●復航之夜邀台商作客 強調飛安與服務再推優惠方案 ４面
●杉並區台灣市集熱鬧開幕 謝長廷感動台日民間交流興盛 ６面

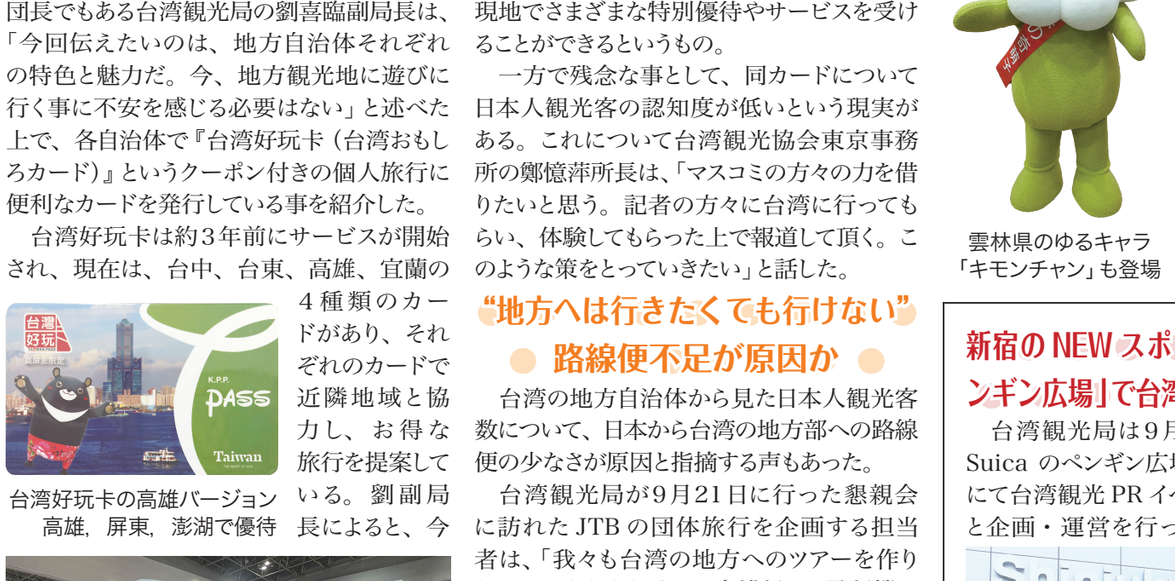
WEBでも二ュース記事が読めます
http://blog.taiwannews.jp/

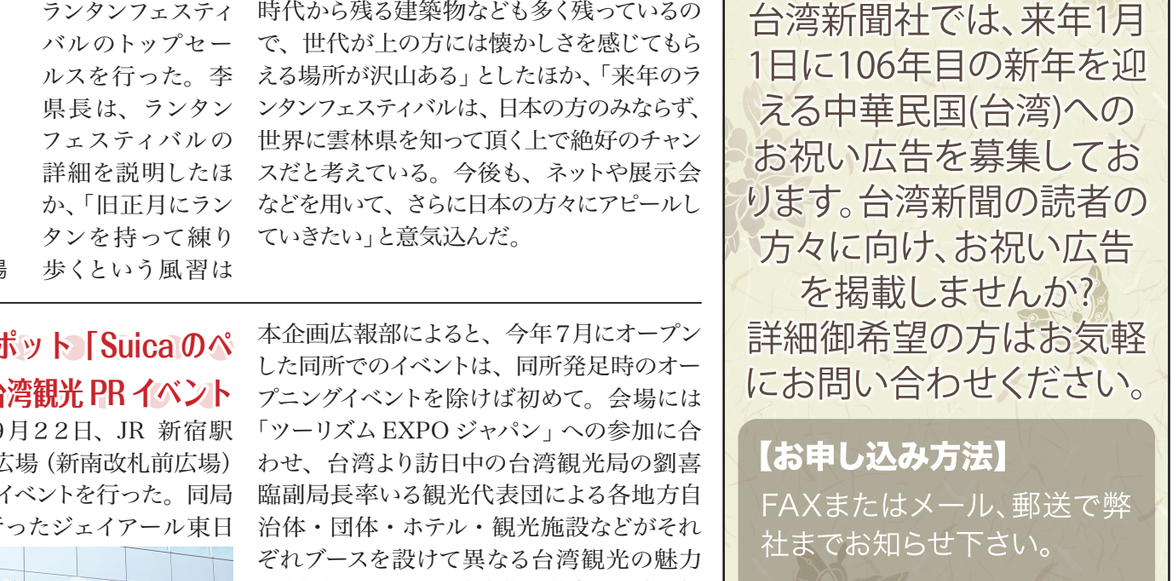
台湾新聞2017年 謹賀新年元旦号 広告ご出稿のご案内

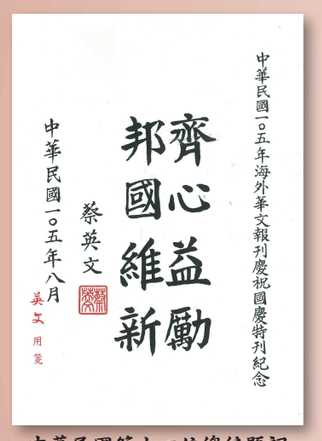
台湾新聞社では、来年1月1日に106年目の新年を迎える中華民国(台湾)へのお祝い広告を募集しております。台湾新聞の読者の方々に向け、お祝い広告を掲載しませんか?
詳細御希望の方はお気軽にお問い合わせください。

【お申し込み方法】
FAXまたはメール、郵送で弊社までお知らせ下さい。

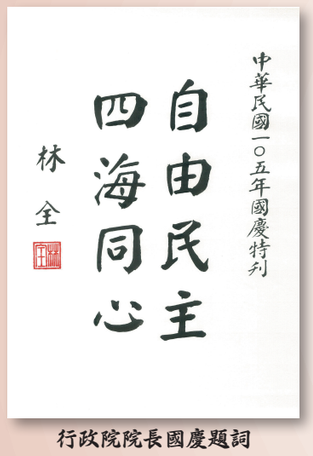
【お問い合せ・お申し込み先】
台湾新聞社
TEL：03-5917-0045
FAX：03-5917-0686
E-mail:info@taiwannews.jp
〒171-0021東京都豊島区西池袋4-19-4







中華民國第十四任總統題詞

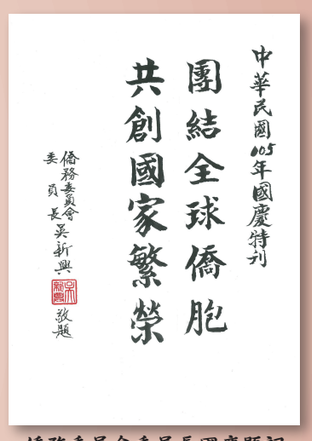


行政院院長國慶題詞

立法院院長國慶題詞

考試院院長國慶題詞

監察院院長國慶題詞



僑務委員會委員長國慶題詞

2016年双十国慶節祝辞

台北駐日経済文化代表処　代表　謝 長廷

謝長廷代表

10月10日は中華民国建国を祝う「双十国慶節」でございます。

今年、台湾では新しい変化がありました。1月16日の総統選挙で、民主進歩党推薦の蔡英文候補が総統に当選し、5月20日に就任しました。8年ぶり3度目の政権交代で、台湾に初の女性総統が誕生しました。

蔡総統は日本との関係を極めて重視しており、台日関係を一層強化するよう私どもに指示がありました。私は台湾と日本の各分野の関係強化に全力で取り組み、「運命共同体」に近づけてまいる所存です。

6月9日に着任した翌日、九州・熊本の地震被災地を訪問し、台南・高雄市長とともに台湾の人々からの義援金を熊本県知事に届けてまいりました。また、今年2月に台湾南部地震が発生した際にも日本の各界から多くの支援をいただきました。このように台日間には、互いに災害救援の手を差し伸べ合う「善意の循環」が形成されており、政治的打算を超越した人と人との友好の太い絆がある支え合いの「共生」関係こそが世界平和の模範となるものです。

昨年の台日間の往来者数は台湾からが約380万人、日本からが約163万人、合わせて約543万人でした。今年は上半期の時点で310万人を超えており、昨年のペースを上回っています。また、近年は修学旅行や学校交流など台日間の学生交流も盛んになっています。若い人たちの交流は未来の台日友好関係の安定的な発展に極めて重要です。

双方の往来が頻繁になるに伴い、地方自治体間の交流も活発になっています。着任以来、主に週末を利用して熊本の他にも香川、沖縄、大分、新潟などの各県を訪問し、各界の皆様が友好関係促進のために尽力されていることを改めて実感いたしました。

また、台日の国会議員の間にも密接な繋がりがあり、双方の関係発展に大きな役割を果たしております。今年8月には蘇嘉全・立法院長（国会議長）を会長とする超党派の議員連盟「台日交流聯誼会」の訪日団が、日本の与野党国会議員と交流し、台日間のさまざまな課題について率直な意見交換をしました。

先月は和歌山で全国日台友好議員協議会が主催する「日台交流サミット」が開催され、台日の地方議員同士の親睦も深めました。同サミットでは、台日間の自治体交流の強化とともに、台湾の国際民間航空機関（ICAO）等の国際機関への参加を支持する「和歌山宣言」が発表されました。

台日間は今後、今年12月より国立故宮博物院南院で東京と九州国立博物館のコレクションの展覧会が開催されるなど引き続き文化交流を深めてまいるとともに、経済連携協定の締結や環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の参加、グリーンエネルギーやIoT分野の共同研究開発などの経済産業連携の強化や、少子高齢化、防災、防疫など共通テーマの協力促進など、各分野の関係発展に全力で取り組んでまいります。

今後も皆様と共に力を合わせることにより、素晴らしい台日関係の新時代を切り開いていけることと信じております。

優れた台湾製品のMOOK本「すごいぞ台湾」が発売

台湾貿易センター（TAITRA）は9月8日、東京ステーションホテルで、台湾の優れた製品をブランドの視点から編集したMOOK本「すごいぞ台湾」の出版記念発表会が開催され、同書が初お披露目された。

同書は、台湾の経済部が優れた台湾ブランド製品に対して贈る賞、「TAIWAN EXCELLENCE」の受賞企業28社のユニークで高品質な製品及び台湾の世界一や世界初の事例、台湾カルチャーとクリエイティブの拠点などを特集し紹介した書籍。観光やグルメに焦点を当てた台湾本が次々と発行される昨今、同書は台湾の製品の紹介に的を絞り、新たな台湾を発信しているところに特徴を持つ。商品の紹介はもとより、企業の熱い志しや商品開発の背景、そして企業社長らのインタビューなども組み込まれており、世界に誇れる台湾製品の今を多方面から知る事が出来る。

TAITRAが情報センター出版局とコラボレーションして製作し、9月15日に全国の大型書店及びAmazonなどネットでの販売が開始された。

発表会には、台北駐日経済文化代表処経済組の張厚純組長、TAITRA本部戦略マーケティング処の陳英顕処長、台湾貿易センター東京事務所の呉俊澤所長、情報センター出版局の田村隆英社長及び同社の執行役員で同書の編集長を務めた倉本哲編集長が出席。陳処長は挨拶で、台湾は製造業を中心に発展し、今の経済力がある事を説明。そして、台湾には優れた中小企業が沢山あるが、台湾の中小企業はマーケティングが弱いという問題点を話し、「私達はこのような台湾中小企業をサポートしていきたい。今回のMOOK本で優秀な台湾製品やブランドがある事を日本の皆さんに伝えられれば」と同書出版に対する期待を述べた。

このほか、同書でも紹介されている「TAIWAN EXCELLENCE」受賞企業のASUS JAPANシステムマーケティング部の滕婉華部長、Aidmicsの林書聖社長、Pacific Cycles自転車事業部執行役開発責任者の渋谷正昭氏が登壇し、同書掲載製品や新製品についてのプレゼンを行った。

また会場の後方には、ASUSのデザインにもこだわりを持ったスマートフォンの「Zenfone 3」、Aidmicsのデジタル時代の新しいスマホ顕微鏡「μ Handy（顕微鏡カメラ）」、Pacific Cyclesの高いデザイン力と技術力を持ち合わせる折り畳み式自転車、SINGTEXの究極なエコ技術コーヒー豆の粉でつくったスーツ&Tシャツ「S.Café」、さらにHeartWayの世界80ヵ国で愛用されている折り畳み式電動介護車（車いす）と、いずれも「TAIWAN EXCELLENCE」を受賞している製品が展示され、来場者らは実際に手にとって“すごい”台湾製品を体感した。

なお、発表会には、若い世代に発信力を持つ女性ブロガーも招待されており、MOOK本や商品と写真を撮るなどして新たな台湾の魅力に触れていた。

ブロガーの浅井裕美さんは台湾製品について、「ASUSのパソコンなどは、以前の職場で使っていました。しかし台湾の製品とは知らなかった。意外と近くに台湾の製品があった事に驚きました。また、MOOK本なので写真を多く使用していて視覚で伝わってくるので若い女性にも伝わりやすいと思います」とコメントした。

陳処長によると、このほどのMOOK本出版のほかに、優れた台湾製品を紹介する機会として、10月7～9日に東京駅丸の内口前の「KITTE（キッテ）」にて、43社100点のTAIWAN EXCELLENCE受賞台湾製品を体感する事ができるイベント「TAIWANEXCELLENCE IN TOKYO」を開催するという。ゲストに女優の藤原紀香さんが出席し、トークイベントも行われる予定だ。

MOOK本「すごいぞ台湾」の出版記念発表会にて

女性ブロガーの皆さんも参加

屏東県が単独で観光PR、官民一体で来日

屏東県の潘孟安県長（中央）が東京で屏東県観光をPR

台湾南部・屏東県の潘孟安県長と屏東県観光協会及び屏東県観光関係者らはこのほど来日し、9月2日、東京・アーツ千代田3331で「光の南国―太陽が燦々と降り注ぐ台湾・屏東県」と題した観光PR発表会及び試食会を開催した。屏東県が単独で東京での観光PRを行うのはこれが初めて。

同会は日本メディアや旅行業関係者らに対し屏東県の魅力を改めて紹介し、情報発信を通じて屏東県を訪れる日本人観光客の増加を促進する事を目的とした。会場には発進力を持つ関係者ら約70人が参加し、屏東の観光地や特産品などへの理解を深めた。

また、屏東県のレストラン「迷路小章魚」のBenson Huangシェフによる屏東県産のカラスミや桜海老などを使用した創作料理や、屏東県のカカオ豆職人の李松源さんが作ったチョコレート及びカカオ茶の試食・試飲も行われ、味覚でも屏東県の魅力を伝えた。

同会後、潘県長は台湾新聞の取材に対し、現在屏東県を訪れる日本人観光客は台湾を訪れる日本人観光客の約18％に留まっている事を説明。その上で「今後、台湾政府の交通部に南台湾への航空定期便の路線拡大を要求したいと思っている。もし実現すれば、1年後には少なくとも訪台日本人観光客の20％以上が屏東県を訪れるようになると確信している」と述べた。また、「日本人の皆さんは台湾と言えば台北という印象が強いと思うが、屏東県は実は年間約1千万訪れる観光地であり、魅力に溢れた場所である」とし、“ハワイに負けないビーチの数々”、“農業などを体験できるエコツアー”など、観光の選択肢の多さもPR。「屏東県は観光都市を目指していく」とした。その上で、「一度実際に訪れてみないと魅力を感じられないだろう。是非機会を見つけて屏東県にいらして下さい。屏東県の人々は、私のように黒く焼けた肌の中に暖かい心を持っている。その心をもって世界中の方をお迎えしたい」と歓迎の意を述べた。

一方、台湾観光協会東京事務所の鄭憶萍所長は、木造の竹田駅、日台の絆を描いた「海角七号」のロケ地などの観光スポットや屏東県特産フルーツのレンブやマグロなどの美食を紹介したほか、「新幹線で高雄の左營駅から“台湾好行”という観光バスが運行されており交通も便利」と交通面の利便性もアピールした。

今回の会場には、海景世界企業公司の鄭宜芳董事長、屏東県民宿協会の林榮欽理事長、屏東県観光協会の郭子義理事長など屏東県観光業界の重鎮らも参加するなど、官民一体となって日本の観光及びメディア関係者と交流を深めた。

なお、同会に合わせて同3日と4日の2日間で台湾在住のカメラマン・熊谷俊之さんの写真展「屏東印象寫真展」が開催されたほか、3日には熊谷さんと旅行ブロガー・工頭堅さんによるトークショー、4日には工頭さんとエコ旅行専門家・林秋月さんによるトークショーも行われ、多方面から屏東県の観光誘致を行った。

台湾デザインセンター×日本の地方都市、成果と計画を確認

台湾工業局の呉明機局長率いるデザイン関係者及びデザイナーらからなる訪日団は8月29日～31日、東京を訪れ、「デザインとイノベーション」をテーマに視察訪問を行った。

一行は同31日、東京都墨田区役所を訪問し、台湾デザインセンターと東京都墨田区が昨年の4月30日に締結したMOUに基づいて行われている「日本精造×台湾設計（MADE IN JAPAN x DESIGN IN TAIWAN）」計画について、成果と今後の計画について話合った。墨田区の山本亨区長は、「同プロジェクトは今後、人材交流などの部分でもお互いに協力体制を築いていきたい」と述べた。

また、同日午後には、一行が日本橋とやま館を訪れ、今年6月にオープンしたばかりの同館の視察を行った。このほか、墨田区に続き今年の8月10日にMOUを締結した台湾デザインセンターと富山県産商品の開発を支援する富山県総合デザインセンターとの企画について、話がつめられた。

現在進行中の同企画は、国際水準のデザイン能力を有する點晴設計のデザイナー・韓世國さんと、富山県の代表的な金属工芸品製造会社の能作が、共同で全世界の華人をターゲットとした新製品を開発するというもの。台湾の斬新なデザインと、日本の伝統的で良質な技術のコラボレーションだ。

韓さんは、「今回は実際に能作の能作克治社長にもお会いでき、自分の考えている商品の設計図を見せた。商品は、今年中には完成する予定だ。日本の伝統工芸品の製造会社と作品を作る事にとてもわくわくしている」と話していた。

2012年より日本窓口（東京）を設立し、以来日台間のデザイン部分における架け橋となっている台湾デザインセンターの崔慈芳さんは、このような取り組みについて、「墨田区から始まり、今回富山とのコラボレーションを行っているが、実は様々な地方都市から声がかかっている。全てお受けするという事ではなく、何が台湾のデザインにとって有意義なものなのか、見極めながら話を進めて行きたい」と述べた。

點晴設計のデザイナー・韓世國さん（右）と富山県の能作の能作克治社長

日台交流サミット開催で自治体との連携強化

日台の絆を確かめ合う堅い握手。左から遠藤議員連盟会長、謝代表、尾花正啓・和歌山市長

日本の自治体と台湾の友好を深めるための懇親会「日台交流サミット in 和歌山市」が9月4日、和歌山県和歌山市の「ホテルグランヴィア和歌山」にて開催された。昨年8月に石川県金沢市での初開催以来2回目。今回は「日台友好和歌山市議会議員連盟」が組織した和歌山市実行委員会が主催した。第一回のサミットを契機に今年5月、全国の議員約80人が「全国日台友好議員協議会」を組織化し、第二回はこの協議会が推進する「日台の相互交流・連携強化企画」の一環として開催したもの。

イベントには和歌山の県・市議会関係者を中心に約400人が出席、台湾からも政府関係者を中心に47人が招待された。日台友好和歌山市議会議員連盟の遠藤富士雄会長による開会宣言後、台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表、和歌山県の仁坂吉伸知事、和歌山市の尾花正啓市長らによる来賓挨拶が行われた。

謝代表は挨拶で「台湾と日本は文化、スポーツ、芸術などあらゆる分野において密接で、また、台風・地震等の自然災害で大きな被害に遭ってもお互いに助けあうことができる素晴らしい関係だ。今後もその絆をさらに深めていかなければならず、そのためにも自治体、議会との交流はとても重要であると思う」と述べた。

尾花市長は「和歌山市は昨年11月に初めて台湾の台北と台南を公式訪問させていただいたが、その際に台湾の日本に対する温かい思いを肌で感じる事ができた。この交流サミットを通じて日本と台湾が経済・文化等においてさらに絆を深めていく事を祈念している」と述べた。また、イベントの中で台湾のICAO（国際民間航空機関）参加を支持する「和歌山宣言」の発表も行われ、日台の連携強化を確かめ合った。

個別インタビューの中で、謝代表は「台湾と日本の良好な関係はさらに制度化させて次世代に伝えていきたい」と意気込みを語った。仁坂知事は「台湾は日本と永遠の友達であって欲しいし、これからもその関係を大事にしていきたい。当イベントは友情関係を育むとても良い機会である」と感想を述べた。

次回の「日台交流サミット」は熊本県熊本市で開催予定。

台湾語でもっと臺灣

台湾では中国語の他に、台湾語も広く使用されています。台湾特有の言葉を覚えて台湾への理解を深めましょう！

方向編

台湾語：タオジェン
日本語：前
中国語：チェンミェン（前面）

台湾語：アオビィア
日本語：後ろ
中国語：ホウミェン（後面）

台湾語：ジャーピェン
日本語：右側
中国語：ヨウビェン（右邊）

台湾語：ダーピェン
日本語：左側
中国語：ゾウビェン（左邊）

※台湾語は地域により様々な言い回しがあります。
同コーナーでは一般的に良く使われる台湾語をカタカナで紹介しております。

日台“雅楽”の共演が実現

台南市南聲社の演奏

日本と台湾の“雅楽”が共演する公演「唐楽饗宴」が9月12日、銀座ブロッサム中央会館で行われた。公演は2部編成で行われ、1部は日本の真言宗豊山派に所属する「豊山雅楽会」、2部は台湾の「台南市南聲社（以下：南聲社）」がそれぞれ伝統的な雅楽を奏で、観客は日台による雅楽演奏の比較を楽しんだ。

主催の日本台湾芸術文化センターの鍋島吉朗氏によると、日台の雅楽会が同じ舞台で公演を行うのは同公演が初の試み。また、南聲社が日本公演を行うのも今回が初めてという。

豊山雅楽会による演目は、古代、仏教や宮中の儀礼の中で演奏された古代の慣例に倣った「五常楽急」、「平調音取」、「林歌」など。一方南聲社側は、恋愛について歌っている「紗窗外」、「共君斷約」など5曲だった。楽器の音色や装飾も日台でそれぞれ特色があり、1回で2つの公演を鑑賞したかのように充実した内容だった。

南聲社の魏麗珍総幹事は、「今回初めて生で日本の雅楽を聞いた。台湾と日本は異なる雅楽ではあるが、同じ“禅”と“静”の部分を感じた。互いに伝統を継承する事は一番大切。今後も機会があれば日本で公演していきたい」と話した。また公演を観賞した真言宗豊山派総本山長谷寺東京出張所の小林観秀主事は、「異なる雅楽でも、元は同じものなのではないかと感じた。同じものから枝分かれして出来た音楽であるという事を来場者の方にもわかってもらえただろう」と話し、関係者もお互いの雅楽に親近感を深める機会となった模様。

鍋島さんは、「日本で生まれ育った台湾人の皆さんをはじめ、雅楽を知らない人たちに雅楽とはどういうものなのか伝えたいと思い開催した。今後は台湾で日本の雅楽公演も企画したいと思っている」と話し、今後も続けて日台の文化交流を促進させていくとした。

なお、観客からは、「同じような楽器もあって面白かった」、「台湾側の雅楽には楽譜が無いことにも驚いた」、「同じ舞台で異なる雅楽が聞けるという機会も素晴らしい」というコメントがあり、一人一人の観客の心にも響く公演となっていた。

豊山雅楽会の舞踊と演奏

驚き！台湾人コレクターが所蔵の明治工藝が“里帰り”展示

約4年の準備期間を経て実現した「驚きの明治工藝」展が9月7日、東京藝術大学大学美術館で幕を開けた。

同展は1人の台湾人コレクター・宋培安氏が約30年弱の期間に収集した明治工芸品のコレクションを日本で初めて展示した記念すべき展示会。宋氏の数ある日本工芸品コレクションの中から明治時代の工芸品を中心に、その基となった江戸時代後期から、明治時代の影響が及んだ昭和初期までの作品130件を“写実の追求”と“技巧を凝らす”の2章に分けて展示。鉄や銅などで龍や蛇、昆虫などを写実的に作り、胴や手足を動かす機能も再現した20点以上の「自在置物」や、ビロードの生地に友禅染を施すビロード友禅をはじめ、漆工、金工、彫刻など、その驚くべき表現や技術を紹介している。同展を監修した同美術館の原田一敏副館長によると、自在置物としては、量・質、共に「世界一のコレクション」という。

同展示会を記念して同6日、開会式及び内覧会が同美術館1階で行われた。開会式には宋氏が台湾から駆けつけたほか、台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表、文化庁長官の宮田亮平氏、台東区の服部征夫区長、東京藝術大学の澤和樹学長、同美術館の秋元雄史館長及び原田副館長、朝日新聞社企画事業部文化事業部の堀越礼子部長らが登壇しテープカットを行った。開会式後は、関係者向けに行われた内覧会で宋氏も展示会場に赴き、来賓らに作品を説明したほか、来場者らと交流を図った。

宋氏は、「昔は中国の作品を収集していたが、二十数年前に日本の主に明治工芸品を見た時、その美しさに魅了され、日本の作品に興味が移った。最初は美しいと感じるものから集めだし、広い分野の作品を集めるようになった」と日本工芸品収集のきっかけを話したほか、「美しい作品が人々に知られる事がなく隅に置かれている事に気がつき、私はこれらの作品と作者に、『いつの日か輝きを取り戻し、あるべき場所で地位を確立させる』と約束した。今日はこの約束を果たす事が出来たのだ。この作品達はやっと日本に里帰り出来た」と、同展の開催への喜びの気持ちを伝えた。

また、謝代表は、「私は台湾で宋氏のコレクションを見た事があるが、同コレクションの驚きのポイントは3つある」と切り出し、明治時代にこのような素晴らしい工芸品があった事、宋氏は個人として沢山のコレクションを所蔵しているという事、宋氏は芸術家でなく薬剤師であるにも関わらずプロにも負けずにコレクションしているという事の3つの点をあげた。さらに、「日台は政治的な外交関係はないものの、文化交流は極めて重要である。同展を通じて日台間の交流を深める事に期待している」と述べた。

なお、内覧会に訪れた東京芸術大学の学生は、「私も工芸品の研究をしています。日本と台湾は歴史的に色々な事があったけれど、台湾の方が今でも大切に日本の工芸品を保存してくれているという事に感動を覚えました」とコメントした。

同展は10月30日まで同所で開催し、会期中には展示室内で東京藝術大学大学院生（工芸史研究室所属）によるギャラリートークも行われる。その後は11月12日より京都・細見美術館で2017年4月22日より埼玉・川越市立美術館に巡回される予定。

「驚きの明治工藝」展が開催

内覧会にて。左から自在置物職人の冨木宗行氏、原田副館長、宋氏夫妻

伝統の台湾オペラ「李三娘」が東京と加賀で公演
～台湾人間国宝の廖瓊枝さんの歌声、日本に響く～

台湾オペラの「李三娘」公演

素晴らしい歌声で会場を魅了した台湾人間国宝の廖瓊枝さん

台湾人間国宝の廖瓊枝さんが脚本を書き下ろし、自らが監督を務めた「薪伝歌仔戯劇団」による台湾オペラ（歌仔戯＝グアヒ）「李三娘（リ サンニュー）」が9月8日、東京・浅草公会堂で行われた。東京で同団台湾オペラの公演が行われるのは2回目。会場は、日本で見る機会も少なく、約300年の伝統を持つ歌仔戯が鑑賞できる機会とあって、1000人を超える観客で満席だった。観客は2時間半に渡る第十幕による舞台の華やかさに釘付け。喜怒哀楽のある演出で、なかには感動で涙を流す人もいるほどだった。

開幕後、同公演の総合プロデュースを勤めた歌手の寒雲さんの紹介で台湾人間国宝の廖瓊枝さんが登場すると会場は大きな拍手で廖さんを迎えた。廖さんは衣装や舞台装置などがないなか、歌声一つでその場を一瞬にして歌仔戯の世界に変えて魅せた。廖さんは公演後、「このようにまた日本で公演を行うことが出来てとても光栄です。私には沢山の教え子が居ます。彼女達にさらなる機会を与えたいと思っておりますので、また是非日本で公演できればと思います」と語った。

公演した「李三娘」は、煌びやかな衣装や透き通る歌声、そしてたまにユーモアも組み込まれた演出で観客を魅了した。セリフは全て台湾語だったが、日本語字幕も舞台両側に設置したスクリーンにより演技と同時に流され、全てを同時に理解できる演出だった。

同公演を鑑賞したArtCompanyPierrotの総合演出家である森健太郎氏は、「始めて台湾オペラを観たが、ユーモアもありとても素晴らしかった。また、音楽の使い方などの演出は、私の舞台でも参考にしたい部分が多かった。また是非見たい」とコメントしていた。

同公演開催のきっかけを作った台湾文化センターの朱文清センター長は、「台湾文化センターが虎ノ門にオープンしてからずっとやりたいと思っていた公演でした。日本で台湾オペラを見るチャンスは多くありません。今回の公演では、台湾オペラの真髄を皆さんに紹介できたと思います。今後も日本の皆さんに台湾伝統文化を紹介していきたいと思っています」と述べた。

同公演は9月11日に石川・加賀市文化会館でも開催された。

台湾オペラとは

台湾では「歌仔戯」（グアヒ）と言われる台湾オペラは、1800年代に福建省から台湾へ移民した人たちによって生み出された故郷で盛んだった説唱・唄・車鼓・踊りなどを融合させたもの。唯一、台湾で生まれ育った芸能とも言われている。当時の舞台劇に脚本というものはなく、開演の2時間くらい前に監督から各役者に、役割とストーリーが説明され、役者たちは化粧をしながら自分に与えられた役の台詞や歌詞を、自分の頭の中で作り上げていく。

※同公演パンフレットより引用

簡単で効率のよい経理を支援します

大塚会計事務所

起業された方や、J-SaaS（サース）やパソコンで会計を始めるという方へ、毎日の経理処理や経理作業を簡単に効率よく進められるやり方をご支援いたしします。

お気軽にご相談下さい

〒171-0022
東京都豊島区南池袋2-12-1
佐伯池袋ビル306
TEL：03-3985-5730
FAX：03-3985-5731

★山手線新大久保駅2分　★総武線大久保駅1分

嘉南旅行社

東京都知事登錄旅行業第3-4417號（社）全國旅行業協會正會員

台北 ¥27,000（税別）　北京 ¥30,000（税別）　上海 ¥35,000（税別）
大連 ¥32,000（税別）　韓國 ¥27,000（税別）　越南 ¥32,000（税別）
香港 ¥30,000（税別）　曼谷 ¥32,000（税別）　新加坡 ¥32,000（税別）
●代辦中國、東南亞諸國簽証 ●世界各地便宜機票、酒店及團體旅遊
●來日團體的酒店、派車、導遊 ●電腦訂位、迅速、確實

精通國、臺、日語服務親切

※銀行匯款口座
三菱東京UFJ銀行練馬駅前支店
(普) 3678888（名義）嘉南觀光（株）

營業時間：週一～五 9:30～18:30・週六 9:30～13:00
TEL：03-3366-3988 FAX：03-3366-2989
地址：〒169-0073新宿区百人町2-20-1第二岡田屋ビル401

大鑫産業株式会社

広めよう未来につながるリサイクル社会

大鑫産業株式会社は、不用品や廃棄物のリサイクルを専門とする会社です。

非鉄スクラップ　自動車部品　OA機器　基　板　CPU貴金属

◎電子部品、パソコン関係などの在庫処分にお困りの方は、DAIKINにご相談ください。
◎生基板、トナーカートリッジを買取、リサイクルいたします。

DAIKIN

TEL. 0297-30-3308（代表） FAX. 0297-30-3309
本社：〒306-0515茨城県坂東市沓掛6464　http://daikin34.com/index.html

Information エンタメ／イベント／日台交流

「TAIWAN EXCELLENCE」東京初上陸!

「TAIWAN EXCELLENCE」東京初開催

台湾貿易センター（TAITRA）は、台湾を代表するブランド43社100製品を一堂に展示する体感イベント「TAIWAN EXCELLENCE」を、10月7日から9日までの3日間、東京駅丸の内口前のKITTEにて開催する。日本での開催は、一昨年の福岡、昨年9月の大阪に続き、3回目。今回、東京初上陸となる同イベントでは、世界トップシェアを誇る情報通信産業機器をはじめ、自転車などのレジャー・アウトドア製品、医療介護機器や美術工芸品などが展示され、実際に手にとって触れ、台湾製品の魅力を体感する事ができる。また、7日には日本の女優・藤原紀香さんが登壇し、トークショーも行われる予定。

問い合わせ↓
台湾貿易センター　Tel:03-3514-4700（担当：中村）

野嶋剛さん連続講座、名古屋で開催

野嶋剛さんが名古屋で講演会

ジャーナリスト・野嶋剛さんの連続講座「台湾とは何か」が10月から12月まで、名古屋・栄中日文化センターで行われる。書籍「台湾とは何か」の著者、野嶋さんが、台湾の複雑な社会や歴史、政治の姿を解説する。第1回（10／23）は「台湾の豊かな歴史・社会・風土を知ろう」、第2回（11／27）が「日本と台湾、台湾と中国、いったいどういう関係なの?」、そして第3回（12／25日）が「知れば知るほど面白い台湾政治を理解するコツ」。いずれも同センターへの入会金（¥3780）と、3回分受講料（¥8424）が必要。なお、65歳以上は入会金が無料。また、第1回、第2回のみの受講は不可だが、第2回と第3回、第3回の受講など途中からの参加は可能。この場合、料金は1回受講分の¥2600＋税が引かれる。申込みは電話かHPで受付ける。

問い合わせ↓
栄中日文化センター　Tel:0120-53-8164

なにわで夜市!「なにわリバーサイド夜市2016」

なにわに夜市が登場!

「なにわリバーサイド夜市2016」が10月7日（17:00～22:00）と8日（13:00～21:00）、湊町リバープレイスで開催される（※両日とも、少雨決行・荒天中止）。当日は、台湾の夜市さながらの雰囲気で、台湾料理やなにわの名店など、国際色豊かな約20のブースが会場内に並ぶ。また、徐綾遙＆李芃による台湾の伝統楽器“二胡”の演奏披露のほか、台湾観光PRのブースも設けられる予定だ。

問い合わせ↓
大阪市浪速区役所 市民協働課　Tel:06-6647-9734

台南の台湾舞踊団パフォーマンス

台南市から雞屎藤新民族舞團が来日

台南市から来日する「雞屎藤新民族舞團」は11月3日、千葉県船橋市にある三井ショッピングパークららぽーとTOKYO BAY 北館1階中央広場で舞踊パフォーマンスを披露する。よみうりカルチャーセンターと台湾文化部が共催で行っている台湾文化光点計画カルチャー講座の一環。演目は第1部「海安夢華録録ー藝姐、南音與婆姐」と第2部「昭和摩登ー林林百貨的ー天」。観覧無料、予約不要。「雞屎藤新民族舞團」は2002年に正式に発足。民族舞踊を創作し、台湾民族の文化や文明、現代性を表現している。詳細は http://www.ync.ne.jp/contents/2016/08/tw2016_09_11.html。

問い合わせ↓
よみうりカルチャー事業本部　Tel:03-3642-4301

松本彧彦さん、「霧社を観光地に!」

日台スポーツ・文化推進協会の松本彧彦理事長

「歴史の史実を知りその上で相互の友好が築けたら」。今年の7月に平成28年度の「外務大臣表彰受賞者」の個人賞を受賞した松本彧彦（まつもとあやひこ）さん。過去十年来、台湾に友好の証として桜を植え続け、先の東日本大震災後に多額の義援金を寄付してくれた台湾へ感謝の気持ちとして、6人の青年スイマーがリレー方式による「日台黒潮泳断チャレンジ」も実施した。一連の活動は、日台友好を目的としたものに他ならず、常に有意義な活動を行ってきた氏の実績が受賞として評価されたものに疑いの余地はない。

1930年10月27日、台中州能高郡霧社（現在の南投県仁愛郷）で起こった台湾原住民による日本時代後期における最大規模の抗日暴動事件・霧社事件。日本人約140人、日本軍人・警察官約30人そして原住民約1000人が死亡や自殺したという凄惨な事件だった。その内容は魏徳聖監督の制作による映画「セデック・バレ」で知る事ができる。

この霧社事件を風化させず日台友好の礎になればと、85年の節目の年2015年2月1日、「“霧社に桜を”台日文化交流・友好の桜植樹式典」を開催した。霧社の地に日本の友好の証である桜を植樹し、日本と霧社の和解、そして日台の確固たる友情を願い実施した。その際、現地の原住民と交流した松本さんは「この活動を通じ日本と霧社が本当の意味での和解をした」と感慨した。さらに「桜が育てば霧社は桜の名所となり、多くの人々が訪れる観光地に発展するだろう。他方、霧社には沢山の観光資源もある。にもかかわらず日本人が知らないのは勿体ない。原住民の生活を手助けする意味でも、霧社を名所にそして観光地にしていきたいと思っている」と願う。沢山の日本人が霧社を訪れることで過去を知り、現地を活性化させ、その上での友好を築いて欲しいというのが松本さんの真骨頂でもある。

現在、日台スポーツ・文化推進協会の理事長を務める松本さんは、さらなる友好を目指すため実行した同活動を通じて、新たな問題に直面している。「霧社事件を起こした張本人モーナ・ルダオの立派なお墓が現在、日本人被害者の共同墓地の上に建てられている。その脇に共同墓地の階段が残っているだけでほかは全て跡形もない。これを霧社の観光地とするにはふさわしくない」（松本さん）。このため、台湾の中央政府や原住民に対し「この問題を解決できるようお話をした」と直訴。中央政府も「原住民の方がよければ」と理解を示し、さらに霧社の原住民からの了解も得た。また、新たに就任した台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表にも話を持ちかけ「わかりました」との了承を得る。氏の思いは伝わった。

松本理事長は「謝代表にも返事をいただけた。これは前に進んでいくだろう。また、霧社の郷長からは、『まず、慰霊碑を建てることから始めては?』との提案も頂いた。まずは今年から来年にかけて慰霊碑を建てるところから進めたい。そして、私達が霧社に植えた桜が咲く来年の春頃に慰霊碑を完成させ、除幕式を行いたい」と期待は膨らむ。その表情からは、約50年に渡り日台関係に尽力してきた松本理事長の「霧社を日本人も訪れる観光地にしたい」という強い思いが伺えた。

今、思うこと —— 日本台湾福禄壽会・林丕繼会長

歳月は一瞬も留まることなく流れ逝く水の流れの如く。頭を回らせが若かりし頃は事業に身を投ずるが如く精励し、公職に格勤し、家庭や家族に思いを致し、子供達に教育を授けたり、人生の進み方が順風満帆であった為に意気高揚し得意満面になっておりましたが、思いもせぬ困難や災厄に遭遇したりすると改めて今までの身の処し方が果たしてよかったのかどうかを反省いたしております。今後は須く過去に捉われることなく、より大きい自己を顧みなければならぬと考えております。

活気ある人々の安心立命のために、萬世のために太平を開かむとすることは、決して他人事ではなく、年若い人々にこそその重責を担って貰わねばならぬと思っております。

大多数の人々は一旦厳しい競争社会を退き家で大部分の時間を過ごすようになると、その生活感覚にも変化が見られるようになるものであります。即ち次のような事象が起こって来ると考えられます。

◆今までの社会的地位を失う事によって、毎日が手持ち無沙汰となり何となくある種の淋しさを感ずるようになり、人間関係もとかく寂漠となって来る。

◆現役時代と異なり当然に金銭的収入は減少し、欲しい物も自由に購入することも難しくなり、生活を脅かされるように感じて来ます。

◆身体的な衰えも現れて来て病気がちとなり、甚だしくなると死ぬのではないかという恐怖に襲われること等々を覚えるようになって参ります。

私達はこの様な考え方を捨て去って終うと、以後の生活態度、又生活感情は当然に変わって来るようになるのであります。即ち今までのような退嬰的気の持ちようではなく、まったく逆に生活上に於いて更なる活力と快楽を覚えるようになるのであります。何故なれば私達年を重ねて来た老人は年若い青年達が未だ経験できない豊富な資産、知恵、経験、それに自由と時間の大きな蓄積があるからであります。

私達年老いた者は豊富な人世を経験して来ており、世の中の森羅万象も洞察して来ており、他人の顔色を窺ったり世のくだらない俗事に惑わされることもございません。私達には何を怕れるものなどあるでしょうか。皆さん、一人一人が元気で活力ある人生を送って行くように努力しようではありませんか。

日本台湾福禄壽会 林丕繼会長

來日本，找新富，用心呵護,用愛守候。

日本留學　日本動漫　日本工廠參觀　日本公司實習　日本短期留學　日本旅游　日臺打工度假簽證　體驗日本文化

日本留學，打工，新富幫您實現夢想!
日語學校和房地產公司聯手爲您服務，讓您安心，放心!

新富国際語学院
Shintomi International Language School
〒262-0022 千葉市花見川区南花園二丁目5−19
Tel：043-276-5828　Fax：043-276-5827
URL：http://www.shintomi.jp
隨時咨詢 E-mail：info@shintomi.jp

協助單位 日本千葉台湾商会
〒262-0022 千葉市花見川区南花園二丁目5−19
Tel：043-221-7368　Fax：043-224-8710
URL：http://chiba-taishokai.net
E-mail：tomiou88@yahoo.co.jp

法人契約で全額損金！節税対策、退職金準備に最適！
万一の保障に＋介護保障＋認知症保障付　保険が登場しました。

14社の生命保険商品を駆使し、
お客様のニーズにあったオーダーメイドの保険をお作りします

NN　AXA　Aflac　MetLife メットライフ生命　楽天生命　NISSAY
Gibraltar ジブラルタ生命　Manulife　ORIX オリックス生命　立ちどまらない保険。MS&AD 三井住友海上あいおい生命
AIG AIG富士生命　損保ジャパン日本興亜ひまわり生命　MassMutual FINANCIAL GROUP マスミューチュアル生命　TOKIO MARINE NICHIDO
立ちどまらない保険。MS&AD 三井住友海上　立ちどまらない保険。MS&AD あいおいニッセイ同和損保　富士火災 Member of AIG

例えば… 東京海上日動あんしん生命の医療保険
頼れる1 健康なら払った保険料が戻ってくる“新しいカタチの医療保険”
新発売！保険料が戻ってくる保険です！
頼れる2 一生涯の医療保険を加入時のお手頃な保険料で
メディカルkit R
頼れる3 入院の有無にかかわらず
入院の保障も手術の保障もしっかり！
※詳しい内容は(株)リンクサポートグループ（本部）へお問合せください

ご自宅・会社・店舗へ訪問してご相談し、最適の保険設計プランをお届けします。お電話、又はメールでご連絡ください。
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内トラストタワー本館20階
【担　当】HOSAKA
【直通TEL】090-4748-8335
【本部】TEL：03-5288-5354
FAX：03-5288-5359

㈱リンクサポートグループ（本部）
全国規模展開の専門知識でコンサルティングができる生命保険代理店

Digest News ―1ヶ月の出来事をダイジェストで振り返ります

September

Sep.1 SF映画「機器之血」クランクイン会見に出演者登壇

ジャッキー・チェン（成龍）とショウ・ルオ（羅志祥）、オーヤン・ナナ（欧陽娜娜）が共演する映画「機器之血」の台北クランクイン会見が行われた。同作はジャッキーにとって初のSF映画。ジャッキーは「アクションスターではなく、アクションもできる“役者”として見てもらいたい。新たな挑戦の始まりだ」と意欲をのぞかせた。来年、台湾などで公開予定の同映画は、シドニー、台北、北京の3都市で撮影を実施。シドニーでのロケはすでに終了しており、台北は2カ所目となる。

Sep.1 台湾、住みやすい国・都市で1位

海外在住者用オンラインコミュニティー「インターネーションズ」がこのほど発表した、世界の住みやすい国・都市のランキングで、台湾が67の国・地域中、1位に選ばれた。調査はインターネットを通じ、海外在住者を対象に今年2月18日から3月13日までの期間で実施。1万4272人が回答した。回答者の居住地は191の国・地域におよぶ。ランキングは、生活の質、暮らしのなじみやすさ、個人財源、仕事、家庭生活などの評価を総合して決定された。調査結果によると、台湾は生活の質と個人財源の2項目でトップを獲得した。ちなみに日本は29位に留まった。

Sep.5 蘇院長、「湾生」は台湾と日本の友情を結ぶ懸け橋

立法院の蘇嘉全院長は、日本の田中和徳衆議院議員が名誉会長を務める「神奈川県日華親善協会」の訪問団一行による表敬訪問を受けた。蘇院長は、「立法院は日本占領時代に建てられた台北州立第二高等女学校の校舎を利用したもので、数多くの日本人卒業生たちが参観に訪れる場所だ」と述べた上で、日本占領時代の台湾で生まれ、戦後に日本へ引き揚げた日本人、いわゆる「湾生」にとって、その晩年に心のふるさとである台湾に戻ってくることは、封じ込めていた感情を解き放つようなものであり、「湾生」は台湾と日本の友情を結ぶ懸け橋だと述べた。

Sep.6 台湾高速鉄道のスマート鉄道システムが産業賞受賞

高度道路交通システム（ITS）に関する国際団体「ITS International」主催の「アジア太平洋地域産業賞（Asia-Pacific Industry Award）」に台湾高速鉄道のスマート鉄道システムの受賞が確定した。香港、オーストラリアなどのライバルを抑えての初の快挙。ITS Internationalは10月11日、オーストラリアのメルボルンで「ITS世界会議メルボルン2016」を開催する。受賞内容は、台湾高速鉄道を運営する台湾高速鉄路公司の「台湾高速鉄道スマート鉄道システム」が「アジア太平洋地域産業賞」を獲得する見込み。今回受賞した5つのスマートサービスシステムには、「スマート車両運行管理」、「スマートセキュリティー及び危機管理」、「スマート座席予約・購入サービス」、「スマート旅客サービス」、「スマート旅行情報サービス」が含まれる。

Sep.9 消防隊員らが駆除作業で危険性訴えデモ

消防隊員らで構成される消防員工作権益促進会のメンバーは、ヘビやハチの捕獲や駆除など、本来の任務とは異なる危険度の高い出動を強いられているとして、行政院（内閣）前でデモを行い、現状の改善を訴えた。台湾メディアによると、近年、火事や救急以外の市民サービスで出動した警察官や消防士の殉職や、重軽傷を負ったケースが複数発生。同会では、消防隊員や農業局の人員を増員した上で、害虫や害獣の捕獲・駆除任務は農業局が行うべきだと主張。行政院内政衛福労働処の関係者は、消防隊員の声は届いたとし、同院内で検討するとした。

Sep.10 蔡総統、金門の「小三通」視察

蔡英文総統は、台湾海峡の西方沖に浮かぶ離島、金門島を訪問し、金門と中国大陸のアモイを結ぶ「小三通」（局地的な通信、通商、通航を指す）の実施状況を視察した。蔡総統は、「1992年に台湾海峡両岸双方の窓口機関の代表が会合したという歴史的事実を尊重する。台湾海峡両岸が歴史的なわだかまりを捨て、良性の対話を進め、両岸の人々に幸福をもたらすよう呼び掛ける」と述べた。蔡総統はさらに、「『小三通』は台湾海峡両岸関係における重要なマイルストーンであり、両岸の今後の発展を担うものだ。双方による善意ある行動によって、争いを棚上げし、共通点を求めて相違を認めて尊重し、共に台湾海峡両岸の人々の幸福を追求し、平和へ向けた新たな局面を創り出したい」と述べた。

Sep.12 観光業界が大規模デモ

旅行会社、観光バス、ツアーガイドなど13の観光業界が、訪台中国人旅行者の減少問題で、政府に対策強化を求めてデモ行進を行った。台湾メディアの報道によると、百万観光産業自救会はデモ参加者を2万人と発表し、観光業界による大規模デモとなった。中国の大型連休に当たる国慶節連休も、台湾を訪れる中国人旅行者は前年比で半減し、08年7月の受け入れ開始以降で最低になると予想されている。

Sep.19 最高齢のルカイ族女性114歳で死去

南部・屏東県内で最高齢の彭玉梅（Samelreng）さんが、三地門郷の自宅で今月10日に亡くなり、その告別式が行われた。114歳だった。彭さんは台湾原住民（先住民）ルカイ族。昨年5月には馬英九前総統が彭さんのもとを訪れていた。彭さんは1902年8月7日生まれ。ルカイ族の織物職人で、これまで女性のみの伝承だった織技術を初めて男性の孫、彭春林さんに伝えた功績がある。現在、春林さんは集落の織物工芸を牽引する存在になっている。

Sep.21 女性が家計を支える世帯、過去最高値

女性の経済的自立が高まるなか、行政院主計総処がまとめた最新の調査によると、2015年、台湾にある総世帯のうち、主に家計を支えているのが女性である世帯の比率は過去最高の29.2%に達した事がわかった。主計総処が行った家庭収支調査によると、台湾では2015年、女性が家計を支える世帯は244万5,000世帯に達した。これは、10年前の2005年と比べると90万世帯の増加。男性が家計を支える世帯は同じ期間に28万世帯増えたのみで、2015年時点で約594万世帯だった。

Sep.21 日本統治時代の「西本願寺広場」が台湾建築業界のオスカー受賞

日本統治時代に建設された寺とその付近の建築群を復元、活性化させた「西本願寺広場」が「台湾建築業界のオスカー」とも言われている「中華建築金石奨」の優良公共建設・優良空間活性化部門に選ばれ、賞を獲得した。同施設は2015年に台湾不動産建設の最高栄誉とされる「国家卓越建設奨」特別賞を受賞している。西本願寺広場は以前、敷地内には住職の宿舎として使われていた「輪番所」や仏教教育と弘法の場所だった「樹心会館」、鐘楼などがあったが、老朽化や戦後の火事により廃墟と化していた。同市政府はかつての姿を取り戻すため、450日間におよぶ復元工事を実施。2012年12月に工事が完了し、現在では人気の観光スポットになっている。

Sep.22 福原愛選手と江宏傑選手、日台双方で結婚会見

リオデジャネイロ五輪卓球女子日本代表でメダリストの福原愛選手と同卓球男子台湾代表の江宏傑選手は、台北市内で記者会見を開き、台湾でも結婚を報告した。日本で前日21日に会見が開かれた際、福原選手は着物姿だったが、台湾の会見ではモノトーンのワンピースで登壇。冒頭、台湾語で自己紹介するなど、台湾に親近感を与えた。結婚生活について福原選手は夫や家族の世話をしていくとし、「私の母も、傑くんの母もそうしていたから。妻になるのは初めてで、至らない部分も多くあると思うので、ゆっくりと学んでいく」と妻として努力していく事を誓った。会見では、江選手から福原選手に、江選手の両親からのプレゼントや、大きな花束を渡す場面もあった。

Sep.22 東南アジアからの留学生を毎年20%増加へ

「2016年台湾の東南アジア地域研究に関する年度シンポジウム」で蔡英文総統は、台湾とアジア諸国との人的往来を活性化するため、台湾の若者の東南アジア諸国での就労や研修を支援するほか、東南アジアや南アジア諸国からの留学生を毎年20%のペースで増やす考えを明らかにした。2019年までに6万人近くの引き上げを目指す。政府はすでに、ASEAN（東南アジア諸国連合）諸国の住民を対象にビザ申請の手続きを簡素化しており、教育部でも新住民（台湾住民と結婚して台湾にやってきた東南アジア出身者）の子弟が両親の祖国で学ぶことができるよう、10億元（約32億日本円）の予算を計上することを発表している。（元＝ニュー台湾ドル）。

Sep.23 陳副総統、菅直人元首相と会談

陳建仁副総統は、日本の民進党・菅直人元首相らと総統府で会談した。陳副総統は、台湾と日本はともに地震が頻発する土壌であるとして、原発の安全対策に関する日本の経験を学びたいと述べ、協力強化に期待を示した。また、双方は原発に大きく依存していると指摘した上で、注目が集まっている代替エネルギー、グリーンエネルギーといった新エネルギーについて意見を交換すべきとの考えも表示した。菅氏は今回、台湾の反原発団体の招きで22日から来台していた。

Sep.25 シャープ・戴正呉社長、役員報酬の返上決定

台湾のホンハイ（鴻海）精密工業の傘下で、経営再建中のシャープは、2016年8月に就任した戴正呉社長の役員報酬を返上する事がわかった。日本メディアが伝えた。2012年以降、シャープではボーナスにあたる取締役の役員賞与も支給されていないため、戴社長は無給で働くことになる。シャープは、2016年3月期連結決算が2年連続の赤字で、戴社長はトップ自ら経営再建に取り組む決意を示したものとみられる。

Sep.26 台湾、ICAO総会への出席と取材が拒否される

国際民間航空機関（ICAO）の総会に台湾当局の代表が招待されなかった問題で、台湾のメディアは、事務局から取材証の発行も拒否されたと報じた。これに対して外交部は、報道の自由に違反する行為だとして、在外公館を通じて各国に注視を呼びかけたほか、ICAOに対して抗議すると明かした。総会は3年に一度開催。台湾は馬英九政権時代の2013年に1971年の国連脱退後としては初めてゲストとしての出席が認められた。だが、今年は招待状が届かず、台湾メディアによる取材も拒否されている。今年5月に独立志向とされる民進党の蔡英文主席が総統に就任したことで、中国大陸から圧力があったとみられる。台湾の代表団は、総会の会場外で各国との会談を目指すとして25日夜、台湾を出発した。（9月27日現在）

台北駐日経済文化代表処・各分処 ～活動内容情報～

日本にある台湾の代表機関である台北駐日経済文化代表処では、在外邦人の保護、ビザの発給、貿易推進、学術・科学技術・文化・スポーツ交流など、大使館や総領事館並の業務を推進しています。ここでは代表処及び各分処の最新情報を毎月お届けしていきます。

駐日経済文化代表処

謝長廷代表、京都府知事を表敬訪問

台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表ら訪問団一行が9月5日、京都府庁で京都府の山田啓二知事を表敬訪問した。京都大学大学院にて法学修士号を持つ謝代表は、自身の留学時代の思い出を交えながら「現在、台湾と日本の関係は兄弟のように極めて良好であり、今後も（中央省庁だけでなく）地方自治体や議会とも連携してさらに絆を深めていきたい」と連携協力を呼びかけた。山田府知事も自身の訪台経験談を織り交ぜ、「現在京都府内の飲食業が数多く台湾に進出している。また京都府としても台湾で物産展などの形で何度も観光プロモーション活動をさせていただいており、今年も10月に台北で予定している。その反響もあって京都に観光に来られる台湾の方も非常に多く、このような経済交流、観光交流は今後さらに活発化していくだろう」と述べた。会見後、山田府知事から謝代表にワイングラスが、謝代表から山田府知事に“からすみ”が手渡され、終始和やかな雰囲気だった。

知事室で懇談する謝代表（左）と山田府知事（右）

駐大阪弁事処

張処長、朝日新聞の取材受ける

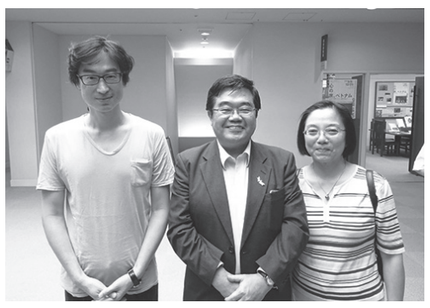
台北駐大阪経済文化弁事処長の張仁久氏処長はこのほど、台北駐日経済文化代表処の副代表就任を機に、朝日新聞社のインタビューに応え、9月15日付の朝日新聞に掲載された。インタビューで張処長は、外交官の父が大阪領事館に勤めた関係で大阪市中央区本町で生まれ、2歳まで大阪で育ったことなど自らの生い立ちについて話したほか、日台間には国交は無くとも台湾の主要都市と友好協定を結ぶ日本の「国交県」が増え、民間から地方行政へと交流の下地がレベルアップしている事、台湾と中国間の問題などについて熱心に語った。また、今後の抱負を聞かれた張処長は、「国益ばかり主張するのではなく、『地球益』を考える外交が求められる時代です。国際社会のプレーヤーとして対話のチャンネルはいつでも開いていたい」と述べた。張処長は9月末、台北駐日経済文化代表処の副代表に就任している。

朝日新聞からのインタビューに答える張処長

駐福岡弁事処

「台湾映画祭2016」を3,000人が観賞

台湾映画祭上映実行委員会が主催し、台北駐福岡経済文化弁事処などが後援した「台湾映画祭2016」が9月15日から20日まで福岡アジア美術館で開催され、入場者数が期間中3,000人に達した。上映されたのは「太陽の子」、「欠けてる一族」、「天空からの招待状」、「若葉のころ」、「湾生回家」、「ラブシック LOVESICK」の6作品で、各作品は2日に一度、計3度づつ上映された。県内在住で2015年に「流」で直木賞を受賞した東山彰良さん（本名 王震緒）も映画祭を訪れ、観賞後、福岡駐事處の戎義俊處長夫妻と親しく歓談した。映画祭初日に挨拶に立った戎處長は、「太陽の子」を見て、花蓮で過ごした小学校時代を思い出しながらストーリーを追った事で、「何年ぶりかで涙を流した」と述べるなど、感動の余韻を残しつつ、観客の皆さんがこれらの作品を通じて台湾の文化、風土、習慣に触れて台湾ファンになり、さらには台湾を訪問してもらえれば有り難いと述べた。（同映画祭の詳細記事は本紙第6面に掲載）



左から東山彰良さん、戎義俊處長、張秀真處長夫人

駐那覇分処

第9回台沖友好ゴルフ大会開催

今年、台湾から「外交の友貢献賞」が贈られた沖縄・台湾交流振興会の平田久雄会長が主催する「第9回台沖友好ゴルフ大会」が9月22日、沖縄本島北部の嵐山ゴルフ場で開催された。同大会には、台湾の台中地区から来たゴルフ同好者およそ200人も参加した。大会終了後、懇親会も行われ、優勝した台中からの男女ペアが表彰された。沖縄分処の蘇啓誠処長は懇親会の挨拶で、平田会長の長年にわたるマラソン交流や、9年前に開始した同ゴルフ大会の開催など台湾と沖縄間交流への尽力に感謝の意を伝えたほか、日台双方がお互いに力を合わせ、スポーツや文化の交流促進のために努力していきたい意向を述べた。

蘇処長（中央）と優勝選手

駐札幌分処

札幌分処・陳処長が「旭川空港開港50周年記念講演会」で講演

「旭川空港開港50周年記念講演会」が9月10日、北海道・旭川空港にてが開催され、札幌分処の陳桎宏処長がパネルディスカッションで「インバウンドのためのアウトバウンド」をテーマに講演を行った。陳処長は、日台双方の友好交流が強い絆を背景に年々深化を続けている中、特に人的往来は昨年540万人を突破する等、史上最高レベルに高まっていると強調。なかでも、台湾人の出国者の約61%が個人旅行である事から、受け入れ側は増加する台湾人観光客への「おもてなし」として、多言語対応はもとより、いわゆる「ニューツーリズム」、体験型観光等に注力する事が有効では、とした。本題のインバウンド強化については、北海道の皆様が長期的視野に立ち、修学旅行等を通じてこれまで以上に積極的に台湾行きをPRする事で、まずはアウトバウンド強化を図り、中間目標としての台湾－旭川間の増便を達成し、誘客し易い環境を整えてから最終目標のインバウンド強化に取り組むとどうか、との自論を展開した。

パネルディスカッションを行う陳処長（右2）

駐横浜分処

静岡日台友好協会長ら横浜分処を表敬訪問

静岡日台友好協会の長谷川博司会長率いる焼津市議会の村松幸昌議員、松島和久議員、大野雅已事務局長及び画家の高橋泰弘氏の5人は9月14日、横浜分処を表敬訪問した。一行を歓迎した同処の粘信士処長は、日本の地方と台湾との交流促進などについて、意見交換を行った。長谷川会長は、台湾の蔡英文総統のために特別に高橋氏に描いてもらった蔡総統の素描を粘処長に手渡し、蔡総統に届けてもらうよう希望した。また、静岡県と台湾で近年、スポーツ交流を促進している事や、焼津市と台湾の地方交流が盛んである事について同処に感謝の意を伝えた。粘処長は、台湾が希望するICAO等の国際組織加入への支持を求めたほか、今後も静岡県との交流を継続していきたい意向を伝えた。

画家・高僑氏（左）から蔡総統の絵画が粘処長に託された

※資料提供：駐日経済文化代表処・各分処※

「太陽の子」上映会に主演女優アロ・カリティン・パチラルさん来日

座間市のハーモニーホールで行われた上映会のトークショーにて

実話をもとに映画化し、台湾社会に感動を巻き起こしたアミ族の家族と故郷の再生物語、映画「太陽の子」（原題：太陽的孩子）の上映プロジェクト「太陽の子ウィーク」が9月10日から19日まで、東京、静岡、神奈川、福岡など各地で行われた。

9月10日から13日にかけて開かれた上映会では、同作の主演女優であるアロ・カリティン・パチラル（阿洛・卡力亭・巴奇辣）さんも特別に来日。アミ族の赤を基調とした伝統的民族衣装で登壇したアロ・カリティン・パチラルさんは、同作撮影の裏話や台湾原住民、アミ族に関するトークを行ったほか、映画の中でも使用されたアミ語の歌などを披露。観客は透き通るような美しい歌声に酔いしれた。

13日に座間市のハーモニーホールで行われた上映会で一通りの来日イベントを終えたアロ・カリティン・パチラルさんは、「先日の上映会で、サイン会の時に日本人の方が私のところへ来て涙ぐみながら『こんな素晴らしい映画を作ってくれてありがとう』といってくれた言葉がとても嬉しく、心に残りました。また、毎回取材に訪れてくださった日本のメディアの皆さんも、台湾人のメディアの方より私の映画を本当に丁寧に観て取材してくれた事にも感謝しています」と感想を話した。また、今後については、「いつかは日本の映画館で上映出来る事を祈っています。それが実現すれば、映画の中の家族全員で舞台挨拶に帰ってきたいです」としたほか、「この映画は子供目線で社会を見るという事もテーマになっています。是非日本の子供たちにも同作を見てほしい。子供にはとても心に残る作品だと思います」とさらなる期待を述べた。

同プロジェクトの発起人は元朝日新聞台北支局長で現在フリージャーナリストの野嶋剛さん。台湾で同作を観て感動を覚えたという野嶋さんは、半年経ってもなかなか日本上映の機会に恵まれない事を見かね「日本の皆さんにも紹介したい」との強い思いから自ら動き、台湾側の製作サイド、日本の台湾映画同好会や台湾文化センターのサポートを得て日本での上映実現に至った。今年の6月から上映を開始していたが、今回は同プロジェクトのピークとして太陽の子ウィークを開催した。

「太陽の子は、色々と考えさせられる映画です。私自身何回も同作を観ていますが、観るたびに涙が出てしまいます。現在では、日本の各地から同作を上映したいという言葉を沢山頂いています。これからも同作の上映は続けていきたいと思いますので、同作を観た方は口コミをしていただき、それを通じて同作が日本社会に伝わっていく事に期待しています」（野嶋さん）。

作品を観た観客は、「私はあまり映画で泣かない方ですが、同作には何度もこみ上げるものがあった」、「日本のニュースでは知る事のできない台湾社会における原住民の方の問題や、生活の様子を知る事が出来た」など様々な感想があった。なお同作は9月15日、17日、19日に福岡アジア美術館あじびホール（福岡市博多区）でも「台湾映画祭2016」として観賞会が催された。また、今後の上映情報などは随時フェイスブックページなどで更新される模様だ。

トークショーではアミ族の衣装を着て登壇

福岡で「台湾映画祭」開催

台湾映画祭上映実行委員会の主催で、台北駐福岡経済文化弁事処などが後援する「台湾映画祭」が9月15日～20日、福岡アジア美術館で開催された。

これは福岡市の「アジアフォーカス・福岡国際映画祭」の関連企画として行われたもので、上映されたのは「太陽の子」、「欠けてる一族」、「天空からの招待状」、「若葉のころ」、「湾生回家」、「ラブシックLOVESICK」の6作品だった。国内初上映、九州初上映のものが多いだけに、見逃しのないように毎日3作品づつ上映し、どの作品も期間中2日に一度は観賞機会があるように配慮された。

初日の15日には、まず「太陽の子」が上映された後、オープニングセレモニーが行われた。主催者を代表して最初に挨拶した毎日新聞西部本社・広告事業局長の牧埜敦司氏は、まず台湾映画祭が今年7回目を迎えるなど、長く続いてきたことに対して関係者の努力と応援を頂いている人々への謝意を表した。また、我が国で映画の撮影地を訪れることが最近のブームになっていることに触れ、今回の観賞で台湾の風土、魅力を感じていただき、ぜひ台湾を訪問し、友好、親善を深めて欲しいと話した。

次いで台北駐福岡経済文化弁事処の戎義俊処長が、セレモニーの前に上映された「太陽の子」の観賞中に何度も目頭を拭ったことを話した。同氏が花蓮で過ごした小学校時代には台湾人は自分だけで、周りはすべて先住民族だったことを振り返り、当時の友人の思い出と展開される映画のストーリーに何年ぶりかで涙を流したと述べ、感動の余韻を残しながら挨拶をした。小学生の頃、父親の仕事の関係で毎週のように2～3本の映画を見た事。映画を見て自然な形で自分の視野や度量を広げ、学校では教わらない、人生にとって大切な事を学ぶことが出来た事。今もスクリーンの前に座ると、小学生に戻ったように胸がワクワクすることなど、自分と映画のかかわりを伝えながら、7回目を迎えた「台湾映画祭」の上映作品を通じて、台湾の文化、風土、習慣などに触れ、台湾に興味を持ち、台湾のファンになって頂ければ有り難いと述べた。

さらに、これを機に福岡からわずか2時間の台湾を訪問し、映画のシーンを体感して貰えれば、台湾への認識がいっそう深まり、映画祭の役割の1つである日台友好関係深化の橋渡しが実現できるものと確信しており、そのためにもこの映画祭が永続発展することを祈念すると締めくくった。

「欠けてる一族」を製作して映画祭に出席した 江豐宏監督と黃宥騄プロデューサーは、作品のポスターを前にして、現在の台湾人が陥っている「早く早くと急がせるスピード重視」や「儲かりさえすればよいとする利益優先」に疑問を投げかけたいと話し、「人々の心の欠けているところをどうしたら埋められ、人間同士が癒されるかを考えるきっかけになることを願っている」と話した。

江豐宏監督（右）と 黃宥騄プロデューサー（左）

九州のファン、台湾人気アーティスト「盧廣仲」に酔う

福岡県糸島市の芥屋海水浴場で開催された今年の「サンセットライブ2016」に、台湾の人気アーティスト・盧廣仲（英語名：Crowd Lu）が初日のトップバッターとして出演し、九州のファンを魅了した。盧廣仲は8月6日の台北アリーナでのコンサートで満員の観客を集めて成功させたばかり。その勢いのまま9月3、4日、九州で初公演した。

開催期間中は、台風接近による天候で野外ステージの公演を不安視する声もあった。しかし始まってみると、演奏メンバーとファンの熱気が時おり雲の切れ目から陽ざしを呼び込むなど、格好のコンサート日和となった。また、もともとアーティストとファンの距離感が近いことで定評のあるサンセットライブ。手を伸ばせば届きそうなところで懸命にギターを弾き、歌う盧廣仲を感じられる舞台設営は、これまで広い会場で遠くからしか見る事の出来なかったファンの心を摑んで離さないものとなった。

1人で台北アリーナを満員にするほどの実力派アーティストであるにもかかわらず、会場の規模を気にする事もなく、時おり日本語のコミュニケーションを交え、首筋から汗を滴らせながらギターを弾き、歌う姿はファンを十分魅了するものであった。また、伸びやかで澄んだ歌声は、やはりライブでなければ味わえないもので、多くのファンから「CDより何倍もよかった」と言い合っていた。

台湾の人気アーティスト・盧廣仲

盧廣仲に一問一答

記者（以下Q）：8月の台北でのコンサートの大成功、おめでとうございます。

盧（以下A）：有り難うございます。

Q：今日は貴方の歌を大変楽しく聞かせてもらいましたが、ご自身の感想は。

A：とても楽しく、良い演奏ができました。雨を心配しましたが、天気も回復しましたし。

Q：九州は初めて。

A：はい。

Q：昨日はどこかへ出かけられましたか？また福岡の街の様子や食べ物の印象は。

A：天神に泊まり、バンドのメンバーと一緒にホテルの周りを歩きましたが、賑やかで綺麗な街だという印象を持ちました。海鮮料理もおいしかったですよ。

Q：いつも笑顔が絶えませんが、笑顔でいられる秘訣は。

A：有り難うございます。皆さんが私に笑顔のイメージを持ってくれているのは、こんな顔に産んでくれた母親のおかげだと思っています。母親には感謝しています（笑）。

Q：仕事や生活でストレスを感じる事は。あるとすればどんな。またその解消方法は。

A：ストレスはそれほどありませんが、曲作りのアイディアがなかなか浮かばないときには少しお酒を飲むこともあります。また散歩やジョギングもします。

Q：ちょっと時間できた時は何を。また仮に2～3日休暇が取れたとすれば何を。

A：本を読んだり歩いたりします。歩くと頭をからっぽにできますから。もし休暇が取れるようなら、もう一度福岡に海鮮料理を食べに来ましょうか（笑）。

Q：演奏するときに気を付けていることは。またどんな気持ちで演奏を。

A：聞いてくれる人と、音楽を通したコミュニケーションを取ることを第一に考えています。遠くから私の演奏を聞きに来てくれている人には「愛」を感じます。

Q：福岡では台湾語（びん南語）を勉強する人が沢山います。中国語でなく「台湾語」で歌う事は。台湾語で歌う時にはどんなお気持ちで。

A：台湾語で歌うと故郷が目に浮かびます。昔、祖母が台湾語の歌を歌ってくれたのを思い出します。

Q：来場したファンは台湾大好きな人が多数を占めると思いますが、あなた自身は台湾のどんなところが好き。

A：台湾の田舎が好きです。みんなで仲良く暮らしている環境やそこに住む人々が好きです。

Q：淡水への愛を歌った「nice to meet you」があります。淡水には特別な思いが。

A：故郷の台南を出て淡水の大学に進みました。そこに長くいましたので、強い愛着があります。

Q：個性的なヘアスタイル、ファッションをされていますが何かこだわりが。

A：いえいえ、適当にやっています（笑）。ヘアスタイルはこれが一番落ち着くからです。短パンを履いているのは、演奏しているときは運動しているような感覚だからです。

Q：新しいアルバム「what a folk !!!!」は何をベースに。

A：民謡です。民謡なら一番生活に近いし、みんなの考えている事を表現できると思ったので。

Q：「what a folk !!!!!」の一坪半という曲の中に「一坪半には収まりきれない夢」と言う歌詞があります。込められた意味は。

A：私は交通事故の挫折を乗り越え部屋の中で歌を作ってきました。人生にはいろいろな事があると思いますが、私の歌を聞いた人が共感して元気を出してくれれば良いですね。沢山歌を作って多くの人に届けたいと思っています。

Q：最後に、今日のライブに来たファンや台湾の事が大好きな日本人に向けたメッセージをお願いします。

A：私も時間があればまた日本に来たいと思います。日本の皆様もぜひ台湾に来てください。お待ちしています。

「リアルな台湾での発見を感じて！」モデル・田中里奈さんにインタビュー

若い女性を中心に人気を集めるモデルの田中里奈さんは今年の7月、第2弾目となる台湾ガイドブック「田中里奈の週末台湾」（宝島社）を出版した。最近では台湾ブームともあり、毎月の台湾本やガイドブックが発売されている。

同書はその中でも特に“台湾への情熱”を感じるものだ。今回台湾新聞では、この情熱の裏を探るべく、田中里奈さんにインタビューを行った。

全面カラーで写真が豊富なこの一冊。かなり多くの場所を紹介しているが、ほぼ全ての場所の写真におしゃれなファッションに身を包んだ田中さんが写っている。

「同書で紹介した場所は、私がピックアップさせてもらった所が約8割位です。SNSのインスタグラムなどを利用して、台湾で美味しそうなご飯やオシャレなところ、素敵な場所を見つけて、編集部さんに提案させてもらいました。もちろん現地コーディネーターさんの協力もありましたが、最後の編集作業では、掲載するかしないかなど、全て決定させてもらいました。本当に掲載に値するかどうか、皆さんにオススメできるかがポイントです。また、仕事ではなく、皆さんと同じように実際に旅行に行ったときの感覚も知りたくて、プライベートでリサーチ旅行にも行ったんです」（田中さん）。

やはり同書から感じた台湾への“情熱”は間違いなかったようだ。台湾のオススメ料理を聞いた際も、「えっと、P.44の人和園雲南菜は何を食べても美味しいです。あとP.31の杏仁豆腐味のカキ氷も大好き」と、なんとページ数まで覚えているという読み込みっぷり。ここまで編集に力を入れた理由について田中さんは、「2013年に1冊目の台湾ガイドブック『田中式 旅の教科書 台湾』を出版したのが台湾との出会い。そこから、これまでに10回以上台湾を訪問してきました。行く回数が増えると色々な情報も入ってくるようになり、どんどん台湾を知っていきました。そして3年たった今、前とは違うスタンスで自分なりに感じた台湾の良いところを色々な角度から伝える本を出したかったんです。前回は書けなかったエッセイも、今では台湾との思い出が沢山あるので書くことができました」と語ってくれた。確かに、ところどころで掲載されている田中さん自身のプチエッセイを読むと、上辺ではなく、本当に心から台湾を思っている事がひしひしと伝わってくる内容だった。

「よくある台湾の本は『The・台湾』みたいな台湾を紹介している事が多いけど、自分が行ってみた時に見た台湾と違う部分が結構あったんです。同書では、ちゃんと若い同世代の子達に伝えてあげたかった。底が見える楽しみではなく、何回もいきたいと思えるところ、リアルな台湾での発見を感じてほしいです」（田中さん）。

台湾新聞234号 読者プレゼント 応募券

読者プレゼント企画

台湾新聞をご覧の皆様の中から抽選で3名様にサイン入り「田中里奈の週末台湾」（宝島社）をプレゼント致します！応募方法は、ハガキに応募券の切り抜きを貼り付け、お名前、ご住所、お電話番号及び台湾新聞へのご意見ご感想を明記のうえ、台湾新聞編集部までお送りください。当選のご連絡は発送をもって代えさせて頂きます（10月中に発送予定）。

締切り：10月20日（消印有効）

台湾新聞社編集部〒171-0021東京都豊島区西池袋4-19-4／tel:03-5917-0045

第二十二回

台湾人百人百色 金瓜石小、基隆中学……———台北市の呂芳儀さん

文：林 雅行（映画監督）

台北市の呂芳儀さん

現在台北市に住む８６歳の呂芳儀さんは、基隆市の呂敏精さんの2つ上の兄である。弟の敏精さんが生まれた１９３３年１２月２６日、父は坑山の中で金を掘りあてた。金鉱のヤマに一攫千金を求めて大勢の男たちがやってきた戦前の九份での成功者の数少ないひとりだった。坑夫仲間の義兄弟と日本、満州、朝鮮、樺太を旅行し、グランドピアノを土産に台湾に戻り日本人の通う金瓜石小学校に寄付し 自分の子どもたちを金瓜石小学校に通わせた。

九份には台湾人の子どもが通う公学校しかなかったからだ。日本人が通う小学校には台湾人の子どもはほんの数人しか入ることができなかった。父は日本を旅して日本人の教育を受けさせるべきと確信していた。戦後、呂芳儀さんは日本人向けの旅行会社に長く勤めた。

金瓜石小学校は現在、私立の時雨中学になっている。全寮制の進学校（1800名）である。呂芳儀さんと時雨中学を訪れた。「戦後初めて来た」というから70余年ぶりの旧金瓜石小学校である。校内を入ると大きなガジュマルの木。子どもたちはこの木で遊び学級の記念写真を撮った。「運動会が終わって疲れた時、よくこの下で休んだ」と芳儀さん。彼の九份の八番坑の前にあった家の前にもガジュマルがあり、よく木の上に登ったとも。

「戦争の時、アメリカの爆撃機（B24、B29）はこの木の真上を通り基隆港へ爆撃に行った。また日本のゼロ戦とアメリカのP38の空中戦も見ていた」という。

金瓜石学校を卒業後、基隆にあった基隆中学に入った。日本人がほとんどで台湾人は九份からは４人しか生徒がいなかった。

生徒は八堵駅まで列車で行き学校まで歩いた。しかし、戦争末期になると「体力増強」の名で列車使用が禁止、徒歩通学になった。生徒の中には２時間歩いて通学する者もいた。九份に住んでいた生徒には例外として列車通学が認められた。「九份から瑞芳まで歩く。それでも１時間位かかる。そこから列車に乗り八堵駅まで行く」。

芳儀さんに尋ねると 基隆中学での思い出は、プール。生徒は跳びこみ台からプールの中へ。泳げる者も泳げない者も。台の高さは3m。溺れそうな生徒は上級生がプールの脇で見ていて助けたという。芳儀さんは、最初の時、順番を待ちながら内心ビクビクし、目をつぶり、歯を噛みしめ飛び込んだ。何度も水を飲みながら泳ぎきった。

「そのおかげで、今でも週２回はプールに行きますよ」。

日本時代が終わり 戦後も中学に通った。その時代で忘れもしないことがある。１９４６年２月。列車に乗っていると騒ぎがはじまった。１人の中国人の警察官らしき男が列車内を逃げている。それを２～３人の台湾人が追っかけて来て、つかまえて袋だたきにしたという。226事件の初まりだった。まず台湾人の中国人への怒りから始まった。しかし、大陸から中国軍がやってきて、台湾人に牙をむいた。

「基隆港岸壁で台湾人を一列に並ばせ機銃掃射した」。現在、八堵駅の傍には犠牲者の慰霊碑が建っている。八堵駅は立替えられてしまったが、七堵駅は日本時代の駅舎とレールが保存されていた。旧金瓜石小、旧基隆中、八堵、七堵を芳儀さんと一緒に歩いた。

呂芳儀さんは折り目正しい紳士である。背脇もピンとしていて髪もフサフサして実に若々しい。

私は現在、「湾生」のドキュメンタリー映画を製作している。（湾生は日本時代に台湾で生をうけた日本人をさす）。映画の意図は 湾生が台湾時代を回顧したり、故郷台湾と懐かしむというのではなく、湾生を「台湾で生まれる。台湾で生きる。台湾を想っていまも生きる」という視点から、それも、湾生の目線だけでなく、湾生と共に学んだ台湾人の目線からも描きたいと考えたからである。

呂芳儀さんは、日本人の通う金瓜石小学校、基隆中学に学んだ。呂さんにとって日本時代、日本人はどのように映っていたのだろうか？——— それは映画が出来てからのお楽しみに。

More!More!台湾

（文：You Li Xiang）

豊富な種類の「台湾の鍋」を食べに行こう

少し涼しくなり、秋の気配を感じる今日この頃。こうなると食べたくなってくるのが“鍋”ですよね！台湾では鍋の事は“火鍋（フォグォ）”と言います。そして、実は台湾には色々な種類の鍋があるのです。一番伝統的な海鮮中心のものを始め、台湾人が大好きな辛い鍋「麻辣火鍋（マーラーフォグォ）」、羊肉が中心となった「羊肉鍋（ヤンロウグォ）」、日本のしゃぶしゃぶから由来する「涮涮鍋（シュワーシュワーグォ）」、そして冬の定番がアヒルの肉とショウガを使用した「薑母鴨」。聞くだけではどのような味か想像できないですよね？薑母鴨は鍋に大きな生姜と漢方、鴨を煮込んだ出汁に鴨の内臓関係や野菜をしゃぶしゃぶして食べるものです。これが結構おいしいんですよ！漢方も使われているので、体の芯から温まりパワーがみなぎってくる気がします。私の友達の間だと、薑母鴨はなぜか南部の台湾人が好きな気がします。友達曰く、「薑母鴨を食べていれば冬は風邪にならないよ！」との事。また、私の一番のオススメ鍋は、酸菜と豚の三枚肉がベースの酸菜白肉鍋！！これは、今年初めに初めて食べたのですが、程よい酸味と出汁がマッチしていて忘れられない美味しさです。私が行ったお店は台湾電力の社員食堂だった事で有名な、知る人ぞ知る老舗の店「台電勵進餐廳」。現地の台湾人にも大人気で、いつも大勢の人で賑わっています。一緒に行った台湾人の友達も、「何これ、今まで食べた酸菜白肉鍋の中で一番おいしい！両親を連れてきたい！」と言っていましたよ！お店の人も親しみやすくてオススメです。

また、台湾は鍋の形も色々あります。よく見かける鍋の真ん中で2種のスープを仕切った鴛鴦鍋、さらに3つに仕切ったベンツ鍋、真ん中に煙突が立ったようなデザインの炭火のエントツ風鍋、壺のような形の鍋などなど。日本で見た事のないような形が沢山あり、ここに注目してみてみるのも面白いですね。私が一番驚いたのは、焼肉と鍋が同時に出来るような形になったもの。真ん中で鍋をしながら周りで焼肉をする・・・一石二鳥なアイディアですね。具材は同じ、気分に合わせて焼いたり鍋に入れたり。この自由さがなんとも台湾らしいですね！

今では、大きな本物のお花が鍋の中で開花する鍋、麻辣火鍋になんとアイスクリームを入れて味をまろやかにする鍋、色んなタイプの鍋が出てきていて、ここでは紹介しきれないほどです。でも1つ思うのは、台湾人は鍋が異なっても、付けダレはいつもヒラメなどの魚介類をベースに、ニンニク・ゴマ・香辛料・油を加えて煮込んだ調味料「沙茶醤（シャーチャージャン）」を使うという事。これじゃあ全部味が一緒じゃーん！と思うのですが、今では私もいつも使ってしまいます（笑）。日本でも購入可能な沙茶醤を購入すれば、日本に居ながら台湾の鍋を食べた気になれるかも？！是非試してみてくださいね！

酸菜白肉鍋

めくる臺灣（たいわん）

わたしの台湾・東海岸—「もう一つの台湾」をめぐる旅—

著者：一青妙
刊：新潮社
頁：205ページ
判型：19.3 x 13 x 1.5 cm
価格：1,296円(税込)
発売日：2016/9/23

「わたしの台南：『ほんとうの台湾』に出会う旅」（２０１４年発刊）を執筆した一青妙さんの「わたしの」シリーズ第２段として発売されたのが同書、「わたしの台湾・東海岸—『もう一つの台湾』をめぐる旅—」だ。

同書は、今までスポットの当てられることがなかった台湾の東海岸をテーマに、歯科医で女優、台南市親善大使にも任命されている日台ハーフの一青妙さんが書き下ろしたガイド＆エッセイ。先住民が多く台湾人に心の原点と愛され、アウトドア・レジャーも盛んな台東、名所・太魯閣渓谷や日本統治時代の建物を活かした街が人気の花蓮、テレビドラマ「孤独のグルメ」でも紹介され台北から近い宜蘭を主軸に、基隆と九份を加えた全5都市について綴られている。エッセイに登場する施設や観光地は、最後に住所や電話番号、URLなども掲載されており、エッセイを読んで行きたくなってしまった時もすぐに情報がチェックできるようにもなっている。

～一青妙さんより読者の皆様へ～

台湾の東海岸は「癒しと学び」に満ちた素晴らしい場所です。いま台湾は東海岸の観光ブーム。日本でも関心はあっても情報がなく二の足を踏む人も多かったようです。本書では網羅的かつ体系的に東海岸の魅力を紹介しました。この本を通して東海岸を訪れる人が増えることを心から願っております。

読者プレゼント企画

台湾新聞をご覧の皆様の中から抽選で３名様に同書「わたしの台湾・東海岸—『もう一つの台湾』をめぐる旅—」をプレゼント致します！応募方法は、ハガキに応募券の切り抜きを貼り付け、お名前、ご住所、お電話番号及び台湾新聞へのご意見ご感想を明記のうえ、台湾新聞編集部までお送りください。当選のご連絡は発送をもって代えさせて頂きます（10月中に発送予定）。
締切り：10月20日（消印有効）
台湾新聞社編集部〒171-0021 東京都豊島区西池袋4-19-4／tel:03-5917-0045

台湾新聞234号 読者プレゼント 応募券

てくてく台湾旅⑩

松田義人（deco／編集者・ライター）

台湾にも砂漠があった！？

「ここは本当に台湾なのか」と思うほどの砂漠の絶景

昨年、久しぶりに念願の台湾の本を作らせてもらう機会に恵まれ、ならば普通のガイドブックに載っていないような変わったスポットばかりを紹介する本にしようと思い立ちました。テレビ、雑誌、ネット上に出回っている情報はできるだけ避け、台湾人の友だちに協力してもらい、台湾人の間でもあまり知られていない秘境、珍景ばかりを紹介しました。

この本の制作中、ひょんな事から台湾にも砂漠らしきものがあることを知りました。それまでも台湾には何度となく旅行し、離島を含めた全土を車で巡ってきて、大半の地理や観光スポットは把握していると自負する僕なのですが、「台湾の砂漠」というのは初耳で、さっそくその場所に行ってみる事にしました。

台湾屈指のビーチリゾート・墾丁から北東に向かって山を登り、再び海岸線が見えてきたあたりにその砂漠は突如表れました。港仔大砂漠、九棚大砂漠と呼ばれるところで、実際は砂漠というより砂丘に近い感じではありますが、１キロ以上に渡って真っ白の砂が続く景観は「ここは本当に台湾なのか」と思うほどであり、まさに圧巻です。

砂漠の丘をバギーでかけ落ちる

レンタルバギーで砂漠を滑走

砂漠では、大きな四輪駆動車や、レンタルバギーなどが、自然の立地を活かして、小高い丘を右往左往しながら滑走しています。当然、僕もやってみたくなり、地元原住民の方が経営するレンタルバギーを借りて乗ってみる事にしました。レンタル費用、30分で８百元（日本円で約３千２百円くらい）は、正直ちょっと高いと思いましたが、実際にまたがりバギー屋さんの案内で運転してみると、これがかなり面白く、金額以上の体験が出来ました。

砂漠なので思うようなハンドリングは難しいものの、コツを掴めばそれでも自由に動くことが出来ます。特にちょっとした丘からかけ落ちるときの爽快感は、普段は味わえない感触であり、太平洋から吹く風を浴びてのバギーでの滑走もまた、台湾らしい気持ち良さだなぁと感じたりもしました。

一見すれば、やや難易度が高そうにも思える砂漠のバギーですが、台湾人の女性観光客の方も子どもを助手席に乗せ、楽に運転されていましたし、日本人であっても、日頃から車を運転される方ならすぐに慣れる事と思います。

ただし、この港仔大砂漠までは、アクセスが少々難しく、公共の交通機関では行く事が出来ません。港仔大砂漠から最も近い街・墾丁や恒春付近で、近隣のタクシーの運転手さん（たいてい砂漠の場所を知っているようです）に交渉して、行き帰りの手配をお願いするのが良さそうです。港仔大砂漠の近くには旭海温泉という公共の綺麗な日帰り温泉もあるので、ここもセットにして連れていってもらう事が出来れば、より旅が充実すると思います。

渡辺タカトシの「情熱と勢いでトライ&エラー」10

日本と台湾をまたいで働く若者達の過去・現在・未来！

9月22日（木）日本の祝日。私は朝一便の飛行機で台北に出発。台北での打ち合わせを行い最終便で帰国。今の時代、スカイプなどインターネットを使えば打ち合わせは出来る時代。しかし実際には、直接会って話しをして、時間や空間を共有する事以上に効率の良いコミュニケーション手段はありません。とくに海外のスタッフや企業と仕事をする場合、プロジェクトのTODOを円滑に進め、目標とした高いゴール地点を目指す上では、「コミュニケーション」が最も大切なキーパフォーマンスとなります。これまで映画やテレビ番組、イベントを台湾で企画制作してきた中で、コミュニケーションによる“たった１ミリのズレ”が、結果的には“何メートルのズレ”になり、放送延期や商品発売延期、イベント中止など、想定外に大きな影響さえも及ぼしてくる事を何度も経験してきました。私は、台湾と日本の20代30代のスタッフを集めプロジェクトを動かす事が多いのですが、そこでは常に、台湾人と日本人の間に様々な困難や問題が発生します。しかし、それを一言で「文化の違い」といってしまう事に私は疑問を持っており、一緒に現場を戦ってくれるスタッフも共に壁を乗り越えていく事で次第に、文化の違いが問題ではないと思ってくれるようになっていると感じています。当たり前の人と人とのコミュニケーションを大切に、自分たちなりの時間とツールを使って問題をクリアすれば文化の違いを乗り越え一緒に喜び合えるのです。

さて、今月は、新たに立ち上げたプロジェクトを紹介しつつ、そこに参加する台湾と日本の若者たちを紹介したいと思います。「アジアガールズサークル」。YOUTUBEで「AGCC」と検索すると見る事ができますが、日本と台湾の20代の女子が集まり、台湾と日本のファッションやライフスタイルなどを３分から５分程度の動画として紹介する活動をしています。毎月、台北と東京に集まり、自分たちで企画した内容を撮影し、毎週日曜日に動画をアップしています。台北では夜市でファッションコーディネートをしたり、台湾と日本の女子たちのカバンの中身を紹介したり。日本では忍者村レポートをしたり。企画、撮影、編集、全てを台湾と日本のメンバーが自分たちでやります。参加しているメンバーは、台湾に住んでる日本女子や、日本語が話せる台湾女子、日本台湾に興味がある女子たちで、現在登録は15人を超えます。さらに動画を見た方からの加入希望も日々増えています。私がこのプロジェクトを通して思うのは、FacebookやLINEなどは、あくまで繋がる手段であり、実際に会って話し、心が通じ合ったあの瞬間の感動はインターネットでは味わえません。そして、冒頭で私が仕事を通して感じている事のように、会って話して同じ空間を共有する事の大切さが、これからの時代は、より求められていくのではないかと思うのです。それは、インターネットで繋がる事が当たり前になった今の生活の中で、“意識的に”逆らっていく感覚に近いのかもしれません。ちなみに、今日の台湾での打ち合せが決まったのは、昨日の話しです。このフットワークの軽さが同時に必要なのかも知れません。

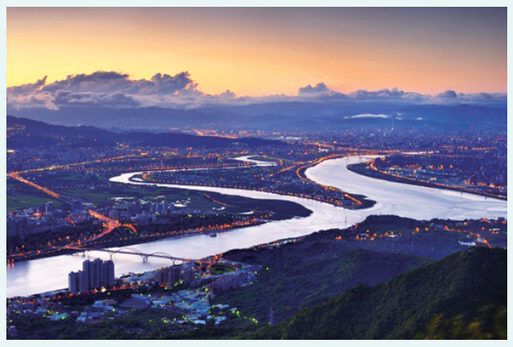
「アジアガールズサークル」の皆さん

きっと見つかるあなたの 台湾・自転車旅

自転車で行こう！

八里 Bali

“マングローブがお出迎え”



「八里左岸サイクリングロード」

MRT淡水駅そばからフェリーに乗ること約5分。あっという間に向こう岸の八里へ到着です。左岸公園付近から出発し、約4kmのサイクリングロードを走ります。サイクリングロードの途中の挖子尾紅樹林自然保護区では紅樹林と呼ばれるマングローブが観光客をお出迎えしてくれます。木々のトンネルや美しい草花を楽しみ、淡水河の雄大で開放的な河畔を眺めながらサイクリングを気軽に楽しめます。終点には同地で発掘された起源前の国家遺跡を展示・紹介する考古学をテーマとした珍しい「十三行博物館」があります。

新北 Xinbei City

“トンネルをぬけて･･･”

「旧草嶺トンネルサイクリングロード」

全長2,167メートルの「旧草嶺トンネル」は1924年2月に貫通。しかし、単線で勾配もあるため、使用に適さなくなり閉鎖されていたものを、再生させ、２００９年にオープンしたのが「旧草嶺トンネルサイクリングロード」です。ここは、台湾で最初に鉄道トンネルをリニューアルしてできたサイクリング道路。新草嶺トンネルのそばに位置するため、列車の通過音も聞こえ、鉄道マニアの期待も裏切りません。自転車を走らせながら、昔のままのトンネル風景を体験できます。自転車に乗って涼しい旧草嶺トンネルを通り抜けましょう。列車音の効果も加わり、昔に戻ったかのような錯覚に陥ります。

日月潭 Sun Moon Lake

“美しい湖面を眺めながら”

「日月潭サイクリングロード」

CNNトラベルの「世界で最も美しいサイクリングロード10選」に選ばれ、ロンリープラネットでも報道された日月潭一周サイクリングロードは、約30キロの日月潭一周道路とサイクリングロード、頭社サイクリングロード、水社向山サイクリングロードなど、快適なサイクリングロードが整っています。台湾一の湖を眺めながらのサイクリングは台湾ツウなら一度は体験しておきたい。また、台湾最大手の自転車メーカー「GIANT」のショップ兼自転車レンタルのカウンターもあるので台湾のトップクラスの自転車を体験する事もできます。日月潭の観光産業連盟協会は今年の８月、浜名湖への観光客誘致活動を行う浜名湖観光圏整備推進協議会と友好交流協定を締結したほか、２０１４年には日本の「瀬戸内しまなみ海道サイクリングロード」とも姉妹自転車道協定を結んでいます。

宜蘭 Yilan

“家族で一緒にリラックス”

「冬山河サイクリングロード」

山河生態オアシス、親水公園、清水大ロック、冬山川出海口、伝統的な芸術センター、52甲野鳥観察の湿地区、冬山伯朗道、真珠ストロー住宅地区などを巡る約25kmの自然豊かなコースです。起伏も緩やかなので、初心者や子どもでも体験しやすい事も魅力です。ひとり乗り用やふたり用、子供連れ用など、さまざまなタイプの自転車が用意されています。花と緑に引き立てられた美しい風景や、冬山河周りの水鳥の群れなどの自然生態を満喫できます。

台東 Tai-Tung

“農村で台湾の風を感じる”

「関山環鎮サイクリングロード」

1997年に正式開通した関山環鎮サイクリングロードは、台湾初の観光レジャー専用サイクリングロードです。関山親水公園から関山旧駅舎、関山鎮、眺望亭、桃花心木区を通り、関山鎮を一回りする全長12kmのサイクリングロード。関山親水公園から出発し、関山親水公園からのびる赤レンガで区切られ整備されたサイクリングロードは、同地名産“関山米”の緑滴る田や黄金色の菜の花に彩られるように、四季折々に変化する田園風景や、アマサギ（鷺）や水牛とすれ違うなど、のどかで美しい山水の景色に癒されながらロハスな時間を堪能できることでしょう。

台南 Tainan

“台湾の花に囲まれて･･･”

「後壁白河米蘭蓮花サイクリングロード」

コース全体は、小南海自転車道（全長14.2キロメートル）、白河蓮郷自転車道（全長16キロメートル）、五分車自転車道（全長2.8キロメートル）の自転車道3本。魅力となっているのは、コース途中に世界で最も花が美しい15コースの一つ、濃いオレンジのキワタの花が咲き誇る白河木綿花道や見事な蓮の花を満喫できる蓮花公園一帯など、季節ごとにさまざまな表情を見せる見事な景観スポットを結ぶルートです。

臺灣自行車節

http://taiwanbike.tw

TAIWAN CYCLING FESTIVAL

10月8日～11月13日の間、「2016臺灣自行車節（台湾自転車フェス）」と銘打った多様な自転車イベントが離島を含む台湾各地を舞台に開催されます。「2016臺灣自行車登山王挑戦（10/28）」「Formosa900－台湾周遊・澎湖周遊レース」「日月潭Come！Bikeday（11/12-13）」など同フェスのメーンイベントをはじめ、会期中は記録を競う本格的なレースから、気軽に参加できるプログラムなど多様な自転車イベントが目白押しです。自転車王国台湾らしいサイクリングフェスをお楽しみください！

興味のある方は臺灣自行車節ホームページまたはfacebookをご覧ください。

HP FB

Taiwan THE HEART OF ASIA 台湾観光局

台湾観光協会
東京事務所 〒105-0003 東京都港区西新橋1-5-8 川手ビル3階 TEL.03-3501-3591 FAX.03-3501-3586
大阪事務所 〒530-0047 大阪市北区西天満4-14-3 リゾートトラスト御堂筋ビル6階 TEL.06-6316-7491 FAX.06-6316-7398
中部連絡所 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3-19-14 林敬ビル4階 TEL.052-684-8188 FAX.052-684-8189

m.taiwan.net.tw go-taiwan.net

台湾見っけ!

台湾観光情報やイベント情報配信中!